

令和3年度
事業報告

社会福祉法人緑樹会

— 目 次 —

◆法人本部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	01
◆総合福祉センター緑樹苑	
＊介護老人福祉施設緑樹苑	
・介護老人福祉施設緑樹苑・・・・・・・・	10
・緑樹苑短期入所（ショートステイ）・・	17
・緑樹苑給食センター・・・・・・・・	21
＊在宅サービスセンター	
・緑樹苑デイサービスセンター・・	25
・緑樹苑居宅サービス事業所（訪問介護・障害福祉）・・	34
・緑樹苑居宅介護支援事業所・・	41
・沖縄市地域包括支援センター西部北・・	49
・みどり学童クラブ・・・・・・・・	55
◆ケアハウスはいびすかす・・・・・・・・	63
◆ケアハウスていんさぐぬ花・・・・・・・・	76

法人本部 事業報告

1. 総括

新型コロナウイルス状況下の収束の見通しが立たない中、感染対策委員会方針に沿って、感染対策委員会を隔週（必要時は都度）開催し、感染防止の方針、取組み・対応を協議。また変異株に対応した就業制限の目安等を策定すると共に各施設長等による医療・行政との細かな連携内容を取りまとめ周知することにより、法人内の感染対策に努めた。

一方で増加傾向する事業支出に対し、感染拡大防止対策等による利用者の受入れ制限等もあり、上半期時点における今年度の事業収支差額の確保が厳しい到達見込みとなった。その為、持続可能な法人運営に必要なガバナンスと財務基盤の構築を図る為、法人本部機能の強化を行うと共に、各施設長等とヒアリングを実施し、各事業における事業方針の確認及び収支目標の修正設定を行った。

法人の全サービスにおいて、理念に沿った質の高いサービスを実施する職員の資質向上と離職防止を図る為、キャリアパスに基づいた経営幹部職への各職位における役割と責任の履行の周知徹底、資質に応じた昇任判断、人事考課表による適切な評価実施の徹底を促した。

2. 運営状況

県内での新型コロナウイルス感染拡大に伴い短期入所の受入れ制限や在宅サービスの利用控え等による大幅な収入減少の要因はあったものの、施設サービスの安定した稼働率状況や包括支援センター受託収入の増加等で法人全体における事業収入は前年度比 0.56%減、収支差額 9.07%増となった。総合福祉センター建替基本構想に基づく、施設整備積立金は目標額を下回る積立額となった。

理事会・評議員会の開催等については、通常開催の他、県の緊急事態制限期間中や近隣地域における感染状況等を鑑み、決議の省略やオンラインによる開催を実施した。

3. 事業状況

(1) 人材確保事業

①県内外の各学校へ求人票の送付

- ・コロナ禍において学校訪問は実施できず、県内学校への求人票の郵送のみを行った。
新卒1名を内定。

②合同企業説明会及び就職説明会への参加

- ・県内での新型コロナ感染者数等の状況を鑑み、集団説明会等の会場への直接参加は見送り、専用サイト（WEB上）での参加、求人の掲載を行った。

③特定技能外国人の活用

- ・コロナ禍における受入団体を含めた対応及び状況が不安定である為、今年度は活用を

見送ると共に次年度以降についてもコロナ禍の終息後、必活用要時に検討を図る。

④リクルートページの活用

- ・ホームページの求人専用ページをリニューアルし、WEB上で求人への応募や採用管理が可能なシステムを導入。求人情報を随時掲載するとともに、求人に特化した検索サイトにも情報が反映される仕組みを構築した。

(2) 設備整備事業

①設備整備積立金の確保

- ・コロナ禍による感染拡大防止対策による事業縮小(短期入所)等の影響により、35,000,000 円の目標積立額に対し、23,000,000 円の設備整備積立金の積み立てとなった

②特養(総合福祉センター)基本設計の作成

- ・アクションプラン 2022 における総合福祉センター建替基本構想を基にした、計画内容、基本設計、概算費用などを含めた基本計画を策定した。

(3) 職員研修事業

研修委員会において、下記①～⑤の各階層ごとの目的別に内容を検討し、研修プログラムを構築。「研修ネット配信サービス」による研修システムを導入し、感染症拡大防止の観点も併せて、時間や場所にとらわれず、各部署のスケジュールで受講できる研修体制とした。

コロナ禍にあつて、①は感染防止策及び時期を延期しながら集合研修で実施。②～⑤については、ネット配信研修を中心とした内容に切り替え、各事業所で随時実施した。

⑥については、昨年の『初級リスクマネージャー養成講座』のフォローアップ研修として実施される『リスクマネージャー実践講座』(全国経営協主催オンライン開催)を課長・副施設長等が受講し、リスクマネジメントへの取り組みの強化を図った。

①新人職員研修

5/19	・介護職員として必要な心構え 『介護職員としての接遇』、『利用者のプライバシー』、『看取りについて』、『介護職員としての職業倫理』
7/14	・介護職員として必要な技術 『コミュニケーションの重要性』、『食事介助』、『口腔ケア』、『排泄介助』、『入浴介助・衣類着脱』、『高齢者疑似体験』、『見守り』
感染拡大防止のため各部署で実施	・介護職員として必要な知識 『介護保険制度について』、『身体拘束・虐待の防止』、『感染症の防止・対策』、『認知症について』、『事故の予防・発生時の対応・再発の防止』、『まとめ』

②新人職員フォローアップ研修

ネット配信研修 による動画講義	『報告・指示の仕方・受け方』、『介護事業所のためのチームワーク向上研修』、『介護職のためのここは押さえておきたい接遇マナー基礎研修』
--------------------	--

③ステップアップ研修

ネット配信研修による動画講義	『最強チームを創り、「働きやすさ」と「やりがい」を手に入れる介護職員向けメンバーシップ研修会』、『アドラー心理学に学ぶコミュニケーションスキルアップ研修』、『チームワーク及びコミュニケーション力向上研修』、『介護職のための病気と薬の基礎講座』
----------------	---

④中堅職員研修

ネット配信研修による動画講義	『介護リーダー養成研修』、『介護リーダーのための信頼関係構築スキルアップセミナー』
----------------	---

⑤係長・主任等研修の実施

ネット配信研修による動画講義	『スタッフがプロの介護職に成長するリーダーの関わり方』、『コーチング研修～人材育成の知識と技術～』、『介護リーダーに必要な業務改善のための4つの力』、『介護現場の管理運営セミナー 業務管理・人材育成マネジメントの具体策』
----------------	--

⑥リスクマネジメント研修

動画講義	『初級リスクマネージャー養成講座の振り返り』、『福祉サービスをめぐる国の動向』、『組織的な質改善の進め方』、『福祉サービスにおける法的責任・判例解説』、『福祉サービスにおける虐待防止』、『緊急時の初期対応』、『災害対策と事業継続計画の考え方』、『感染症対策と事業継続の考え方』
ライブ研修 2/2（水）	『リスクマネジメント実践における成功事例・失敗事例』、『事業継続計画（BCP）の策定と組織マネジメント（BCM）体制』、『緊急時対応（グループワーク）』、『実践講座のまとめ』

⑦マネジメントと職員意識の向上に向けた研修・勉強会

- ・緊急事態宣言及びまん延防止期間以外は各月実施。各事業の収支実績の確認、収支に対する基本理解、今後における法人事業の考え方等の共通理解等をテーマとして実施。また施設長等研修として次世代経営塾への参加促しを実施した。

⑧研修委員会の開催

- ・課長等会議開催時に併せて研修委員会を開催。令和3年度の職員研修について、研修委員会で「研修ネット配信サービス」の導入から運用方法、利活用を推進した。
- ・研修参加職員のスケジュールの都合や、また感染症防止対策の観点などから、ネット配信研修による利便性をフルに活用し、緑樹会キャリアパスに基づく各階層（特に介護職を中心に）について研修内容を検討のうえ、研修を実施した。

（４）広報事業

①竹とんぼ発行

- ・令和3年5月号（第241号）から令和4年4月号（第252号）まで毎月発行した。コロナ禍により、施設入居者への面会ができない中、広報誌を通じて施設内での利用者の活動の様子などを発信した。

②ホームページによる広報の充実強化

- ・広報誌のみでは紹介しきれなかった活動の様子をホームページに掲載し新着情報の充実化を図った。また、リクルート（求人・採用情報）について、専用ページを制作し、職種ごとの詳しい求人掲載や福利厚生・待遇等の情報紹介のほか、求人検索サイトと連動した仕組みや、WEB上から求人への応募が可能な仕組みを導入したことにより、よりインターネット上での露出や発信力を高める取り組みを図った。

③地域ネットワークを活用した広報活動

- ・今年度の地域訪問は中止。コロナ禍における地域への公益的取組みに新たに取り組み、沖縄市、沖縄市内地域包括支援センター、市内居宅介護支援事業所へオンラインによる広報説明会を実施。

（５）主催行事及び地域における公益的な取組みの推進

主催行事は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、実施計画なし。地域における公益的な取組みに関しては、当初は計画のなかったコロナ禍における自宅療養者に対する食事支援の取組みを行った。

①にこにこ宅配サービス

- ・提供人数 0名 計 0食

②デイサービス利用者食事無料サービス

- ・提供食数 7,649食

③新型コロナウイルスによる自宅療養世帯への健康弁当支援。

- ・世帯数 9世帯 支援者数 22名 提供食数 377食

（６）法人本部運営事務事業

①キャリアパス制度の構築

- ・法人キャリアパス内容の周知を促すと共に、キャリアパスに基づいた人事考課による適切な評価実施の徹底を図った。また構築段階における必要な評価内容調整や共通認識の整理を図った。

②事業継続計画（BCP）の策定

- ・自然災害発生時における法人事業の業務継続実施に向けた方針や体制等をまとめた法人共通の事業継続計画（BCP）を策定した。

③PDCAサイクルによる計画的な事業運営

- ・各事業計画及びアクションプラン2022のPDCAを実施。達成状況を確認し、計画的な事業運営に努めた。

④事務業務の合理化・効率化

・法人本部事務局 事務員の体制

令和３年度中に事務局事務員２名が長期休業（産休・育休による）となったことから、決算業務に支障をきたさないようにするため、また、今後の持続可能な法人経営に向けた本部機能の強化を図る観点から、はいびすかす及びていんさぐぬ花の事務員（計２名）を事務局に配置し、事務業務の合理化（集約化）を図った。

・社会保険等手続き等の電子化（e-Gov 電子申請）

これまで紙で申請や届出を行っていた行政手続き（職員の社会保険等の手続き）について、電子申請システムを導入。インターネットを介してWEB上で申請・届出等の手続きを行える体制を構築し、事務業務の負担軽減及び合理化を図った。

・オンライン会議環境の構築

感染症拡大防止の観点から、オンラインミーティングツールを活用したWEB会議による体制、環境を構築した。

・リモートワーク（在宅ワーク）環境の構築

感染症拡大防止の観点から、本部事務局と居宅介護支援事業所において、リモートワークの体制・環境を構築し、在宅での事務業務を実施した。

⑤各種委員会及び会議の運営

＜第三者委員の開催＞

・新型コロナウイルス感染拡大防止の為、第三者委員会の開催を中止とし、令和２年度における苦情・ヒヤリハット・事故等の概要と対応の状況、その後の対策についての報告書を第三者委員へ送付した。

＜安全衛生委員会＞

・職員の安全衛生管理及び災害の未然防止と、職場環境の改善、職員の健康・衛生の保持増進を推進し、円滑に職務の遂行ができるよう下記のテーマについて開催を予定したが、県の緊急事態宣言発令や近隣地域の感染状況を踏まえ、５回のみで開催となった。

開催月	テーマ	参加者
４月	ハラスメントについて	８名
５月	ストレスチェック実施について	中止
６月	長時間労働について	中止
７月	ストレスチェック結果報告について	中止
８月	有休消化取得について	中止
９月	インフルエンザ予防接種（職員）内容について	中止

10 月	ストレスチェック結果報告・有休消化取得について	8 名
11 月	メンタルヘルス対策について	7 名
12 月	腰痛予防対策について各部署の取組み	8 名
1 月	次年度計画案について	中止
2 月	健康診断・人間ドック受診について	中止
3 月	健康診断・人間ドック受診・今年度の活動について	7 名

<幹部会議><感染症対策委員会>

- ・開催日：毎月（第1・3・5金曜日）及び適時
- ・開催数：29回
- ・内 容：各施設・事業所等の情報共有、業務の課題等の審議、具体的な方策など、事業経営全般にわたる検討、協議、事業実施の決議などの他、感染対策委員会として新型コロナウイルスへの感染対策、各施設の情報共有、法人内施設発生時の対応等について協議・指示を行った。

<施設長等会議>

- ・開催日：新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、必要時は幹部会議を施設長等会議に置き換えて開催した。
- ・内 容：理事会・評議員会への議事の素案検討、賞与率、昇給案また各施設における課題等について検討及び提案。施設経営における各施設間の調整等を図った。

<課長等会議（研修委員会）>

本来は毎月第2・第4金曜日の定期開催であるが、新型コロナ感染症拡大防止及び感染対策業務等の対応のため、定期開催ができなかった。

- ・開催日：4/9、4/23、6/11、6/25、7/9、11/12、11/26、12/24、
- ・開催数：8回
- ・内 容：主に法人全体の業務に係る情報を共有し連携体制の構築を図った。また研修委員会として、緑樹会キャリアパスに基づく職員研修の内容及び実施方法についての提案・実施した。

（7）役員会等の開催

<法人監査>

- ・開催日時：令和3年5月13日・14日
- ・監 事：新垣暁子監事、山城真仁監事
- ・内 容：令和2年度事業及び会計監査

<定時評議員会>

①第1回評議員会

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、決議の省略により実施。

- ・決議の省略提案日：令和3年6月11日
- ・議案内容：令和2年度事業報告について
令和2年度計算書類及び財産目録の承認について
次期役員（理事・監事）の選任案について

<理事会>

①第1回理事会

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、決議の省略により実施。

- ・決議の省略提案日：令和3年5月25日
- ・議案内容：令和2年度事業報告及び決算の承認について
評議員選任解任委員会委員の選任（案）について
時期評議員候補者の推薦（案）について
次期役員候補者の推薦（案）について
令和3年度定時評議員会の招集について
目的積立金の取崩し及び目的外使用（案）について
令和3年度第一次補正予算（案）について

②第2回理事会

- ・開催日時：令和3年6月25日
- ・議案内容：理事長の選定について
常務理事（業務執行理事）の選定について
評議員選任・解任委員会の委員選任（案）について
就業規則の改定（案）について

③第3回理事会

- ・開催日時：令和3年10月28日
- ・議案内容：理事長職務執行状況の報告
常務理事（業務執行理事）職務執行状況の報告
新型コロナウイルス感染症の対応報告
令和3年度第二次補正予算（案）について

④第4回理事会

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、オンラインにより実施。

- ・開催日時：令和４年３月１０日

- ・議案内容：理事長職務執行状況の報告

 - 常務理事（業務執行理事）職務執行状況の報告

 - 令和３年度第三次補正予算（案）について

 - 令和４年度事業計画（案）の承認について

 - 令和４年度収支予算（案）の承認について

 - 組織経営規程の改定（案）について

 - 処務規定の改定（案）について

 - 給与規程の改定（案）について

 - 施設長等の再選任（案）について

 - 新型コロナウイルス感染症に関する主な対応報告

 - 令和４年度社会福祉法人緑樹会経営方針

<評議員選任・解任委員会>

①第１回評議員選任・解任委員会

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、書面表決により実施。

- ・書面により決議した日：令和３年６月１１日

- ・議案内容：次期評議員の選任（案）について

総合福祉センター緑樹苑

*介護老人福祉施設緑樹苑

*在宅サービスセンター

介護老人福祉施設緑樹苑 事業報告

1. 総括

令和3年度の入居者の介護度割合は要介護4、5で83%を占め、入居者の重度化や、80歳以上が76%と高齢化の傾向であった。

年度の退去者は22名で、死去による退去は18名、そのうち施設での看取り介護は16名であった。看取り介護については、嘱託医からも十分な説明が行われ、年度末時点で同意者は24名であった。

入居者の健康管理については、水分補給と口腔ケアの強化、また体調不良者の早めの嘱託医への相談等を行い、入院日数は406日で、1名の長期入院（86日）のために、前年度より81日の増であったが、平成30年度と比較すると、前年度同様半減している。入院日数の減は、看取り介護対象者が増え、入院が少なくなったことが主な要因であった。

新型コロナウイルス感染症は、職員4名の陽性者と5名の濃厚接触者が発生した。入居者は19名が接触者として、PCR検査を行ったが全員陰性であった。その他に感染はなく、令和4年2月には、入居者、職員共に3回目のコロナワクチン接種を終えた。予防対策として、嘱託医の指示のもと、入居者の濃厚接触、クラスターを防ぐために、直接介護のときは、防護具（ガウン、手袋、マスク、フェイスガード）着用を行い、入居者への感染を防ぐことができた。

終息の見えない新型コロナウイルス感染症については、国、県の感染拡大防止に関する通知等を踏まえ、感染拡大防止に努めると共に、法人の新型コロナウイルス感染症対策委員会の決定事項を入居者、職員へ周知徹底した。

また、年度を通して家族及び入居者へ面会制限へのご理解・ご協力を依頼し、原則禁止という措置を取った。その代替でテレビ電話を活用した面会を実施し、52家族328回の利用があった。

2. 運営状況

稼働率は、入院日数の大幅な増がなかったため目標の97%を超え97.3%に上昇した。

人材確保は、年度を通して介護職員は、常勤職員4名、パート職員1名の採用を行った。退職者は常勤職員1名で、落ち着いた状況であった。

3. 事業状況

（1）人材育成

コロナ禍の中で、県内外の研修は、WEBで参加することができた。施設内の研修（勉強会）は、感染予防対策を取った上で予定通り開催することができた。

① 施設内研修 実施

施設内研修においては、研修ごとに担当職員自身が資料作成、講師役を担った。

月	研修名	参加人数
4 月	身体拘束適正化・虐待防止	14 名
5 月	褥瘡予防	12 名
10 月	感染症予防	10 名
	褥瘡予防	10 名
11 月	認知症	13 名
	感染症予防	13 名
	LIFE 連携	5 名
12 月	看取り介護	11 名
	身体拘束適正化・虐待防止	11 名
2 月	事故防止対策	14 名
	認知症	14 名
3 月	感染症予防	8 名
	看取り介護	8 名

② 本部研修・講座 実施

月	研修名	参加人数
6 月	新人職員研修	5 名
7 月	新人職員研修	5 名
9 月	新人職員研修	5 名

③ 施設外研修 実施

月	場 所	研修名	参加人数
9 月	緑樹苑 (WEB 研修)	介護施設における安全対策担当者養成研修	1 名
	緑樹苑 (WEB 研修)	福祉サービスに関する苦情解決セミナー	2 名
	緑樹苑 (WEB 研修)	九州老人福祉施設職員研究 Web 大会	3 名
	緑樹苑 (WEB 研修)	喀痰吸引等研修	1 名
	緑樹苑 (WEB 研修)	福祉施設等給食担当職員研修	5 名
10 月	緑樹苑 (WEB 研修)	喀痰吸引等研修	1 名
	緑樹苑 (WEB 研修)	介護報酬改定関連「各加算の取り方等」研修	1 名
	沖縄県看護研修センター	喀痰吸引等指導者研修	1 名
11 月	緑樹苑	喀痰吸引等実地研修	5 名
	緑樹苑 (WEB 研修)	福祉事業部栄養ケアマネジメントの強化に向けたスキルアップ研修	1 名
12 月	緑樹苑 (WEB 研修)	令和 3 年度沖縄県老人福祉施設職員研修大会オンデマント配信	5 名
	沖縄市民会館大ホール	安全運転管理者等講習	1 名

	緑樹苑	喀痰吸引等実地研修	6名
1月	緑樹苑（WEB研修）	令和3年度沖縄県老人福祉施設職員研修大会オンデマンド配信	1名
2月	緑樹苑（WEB研修）	リスクマネジャー養成講座	1名

④介護福祉士実務者研修支援 実施

実務経験3年以上の職員2名に、実務者研修に係る費用の助成を行った。介護福祉士の受験では、4名の内1名が新型コロナ濃厚接触者となり、受験日と重なったことから受験することができなかった。介護福祉士の合格者は2名であった。

⑤介護職員による喀痰吸引等の研修 実施

看護職員が、喀痰吸引等指導者講師の資格を取得したことから、講座からの研修者1名、実地研修のみの5名が、自施設内で最後の実地研修を終えることができ、資格取得ができた。

⑥認知症介護基礎研修 未実施

直接介護の職員に対し、医療・福祉関係の資格を有さない者について、認知症対応力を向上させていくために、認知症介護基礎研修の受講を促進していく。

令和3年度は、沖縄県の研修受講募集に間に合わず、次年度に計画を継続する。

（2）感染症対策及び業務継続に向けた取組の強化について 一部実施

国及び県の感染拡大防止に関する通知等を踏まえ、入居者、職員等への対応について十分留意し、感染拡大防止に努めるよう周知を徹底するとともに、嘱託医への報告、相談で適切な指導を受けることができ、より一層施設内の感染対策ができた。感染予防品に関しては、必要物品を備蓄することができた。

業務継続（BCP）の策定は途中で、研修、訓練（シミュレーション）は実施することができなかった。次年度に継続していく。

（3）入居者処遇

①レク活動 実施

感染予防対策のため、一部中止もあったが、季節の行事等、規模を縮小しての開催を行った。

②看取り介護への対応の充実 実施

「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」の内容に沿った対応を行った。また、新たな加算要件どおりに、看取り介護の担当者会議に生活相談員の参加を行った。

③栄養マネジメントの強化 実施

栄養マネジメントに基づき、入居者の栄養状態の改善、維持に努め、また、LIFEに栄養・摂食嚥下情報を提供し、栄養マネジメント強化加算の取得を行った。

③口腔衛生管理の充実 実施

協力医療機関の歯科医師及び歯科衛生士の協力のもと、口腔ケアについて具体的な技術的助言及び指導を受け、協働して口腔ケアスキルの向上が図れた。また、質の良い口腔ケアを提供することで、誤嚥性肺炎を予防することに努めた。

(4) 備品整備 実施

①温冷配膳車1台が12年経過し、耐用年数も過ぎて、温冷の効きが弱くなってきている。

買い替えを行い、適温で配膳ができている。

②厨房内の業務用冷房機が故障のため使用不能になっていることから取替を行う。

取替を行ったが、厨房内分電盤の電力過多で、他厨房機器と同時使用ができなかったため、分電盤の修繕も行った。

(5) 環境整備 実施

1階厨房裏側の用水路が破損し、雨天時の雨水が、隣接の田畑等に流れ込むため、修繕を行っていく。

計画通りに用水路の設置及び修繕を行った。

4. 行事・活動等 実施

(1) 年間計画報告

月	行 事 名	参加人数
4 月	入居者健康診断 (4/12)	59 名
5 月	母の日祝い会 (5/7)	28 名
	誕生会 (5/28) 中止	0 名
6 月	父の日祝い会 (6/18)	22 名
	誕生会 (6/25) 中止	0 名
7 月	七夕まつり (7/7)	50 名
	誕生会 (7/30)	18 名
8 月	誕生会 (8/27)	13 名
9 月	敬老会 (9/24)	16 名
	誕生会 (9/24)	16 名
10 月	運動会 (10/14)	22 名
	入居者健康診断 (10/22)	62 名
	誕生会 (10/29)	23 名
11 月	誕生会 (11/26)	29 名
12 月	消防訓練 (12/1)	50 名
	誕生会 (12/17)	24 名

	クリスマス忘年会 (12/24)	33 名
1 月	新年会 (1/4)	22 名
	誕生会 (1/20) 中止	0 名
2 月	誕生会 (2/17)	24 名
3 月	消防訓練 (3/18)	12 名
	誕生会 (3/24)	26 名

(2) 実習・ボランティア受入

新型コロナウイルス感染予防対策のため、受け入れなし。

(3) クラブ活動状況

クラブ名	回数 (年度)	参加人数 (1 回当たり)
ミニシアター	73	22
音楽鑑賞	35	18
音楽体操	27	26

(4) その他

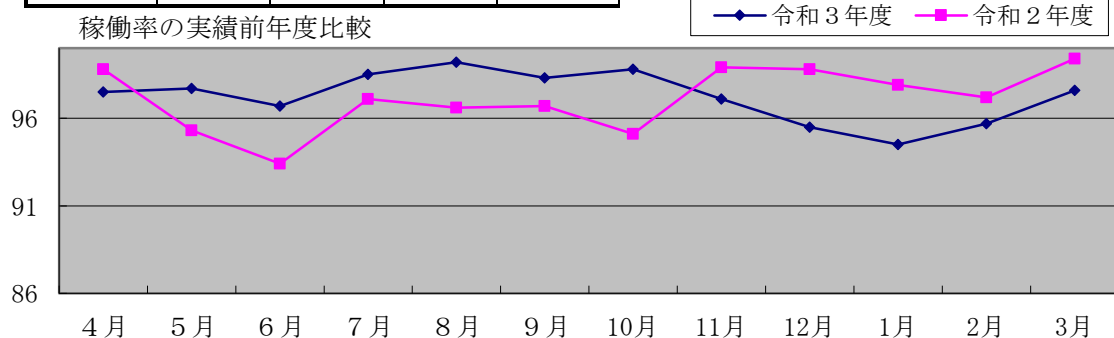
月	内 容
5 月	簡易水道検査
	害虫駆除及びマット消毒 (亜土消毒)
	新型コロナワクチン接種 (入居者及び職員 1 回目)
6 月	新型コロナワクチン接種 (入居者及び職員 2 回目)
9 月	消防設備等機器点検
10 月	衆議院議員総選挙
11 月	害虫駆除及びマット消毒 (亜土消毒)
12 月	消防設備等機器点検
1 月	新型コロナワクチン接種 (入居者 3 回目)
2 月	新型コロナワクチン接種 (職員 3 回目)

5. 利用状況について

(1) 年度実績 (利用日数) 特養 70 名

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
特 養	2,048	2,120	2,031	2,137	2,153	2,064	2,145	2,039	2,073
稼働率	97.5	97.7	96.7	98.5	99.2	98.3	98.8	97.1	95.5

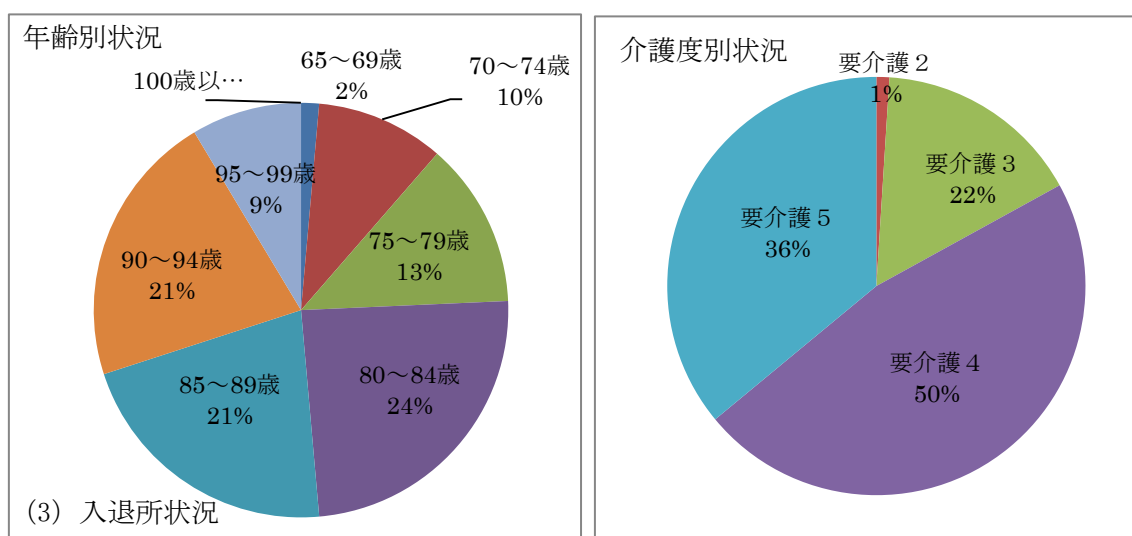
月	1 月	2 月	3 月	計
特 養	2,050	1,875	2,118	24,853
稼働率	94.5	95.7	97.6	97.3



(2) 入居者の性別、要介護度別、年齢別の状況

介護度	要介護 1		要介護 2		要介護 3		要介護 4		要介護 5		計	
年齢	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
65～69 歳	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0
70～74 歳	0	0	0	0	0	1	0	3	1	2	1	6
75～79 歳	0	0	0	0	0	0	2	1	3	3	5	4
80～84 歳	0	0	0	0	0	0	1	8	3	5	4	13
85～89 歳	0	0	0	0	0	3	4	3	0	5	4	11
90～94 歳	0	0	0	1	1	3	1	7	1	1	3	12
95～99 歳	0	0	0	0	0	3	1	2	0	0	1	5
100 歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	1	1	10	9	24	9	16	19	51

- ・最大年齢 97 歳、最少年齢 69 歳
- ・平均年齢：男 83.65 歳、女 85.57 歳、計 85.04 歳
- ・平均介護度：男 4.3、女 4.1、計 4.1



令和 2 年度の入居者数は 21 人（男 5 人、女 16 人）、退去者は 22 人（男 5 人、女 1 人）で、死亡で退去の 18 人のうち、16 人は施設での看取り介護であった。

区分 月	入居			退去					
	他施設 から入居	新規 入居	計	死亡 (看取り)	医 療 機 関	療養型 医療施設	家庭	その他	計
4 月	0	1	1	2 (2)	0	0	0	0	2
5 月	0	1	1	1	0	0	0	0	1
6 月	1	1	2	2 (2)	0	0	0	0	2
7 月	1	0	1	0	0	0	0	0	0

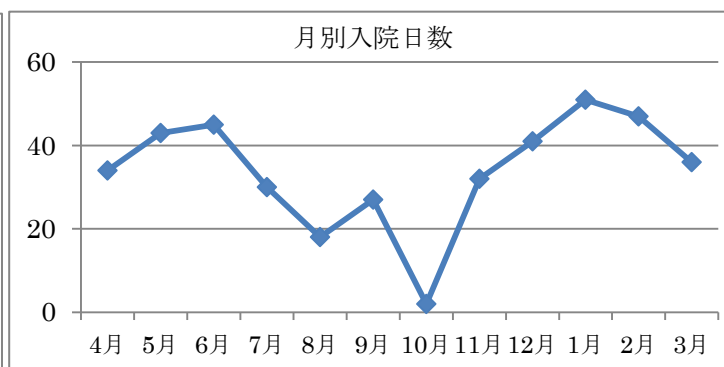
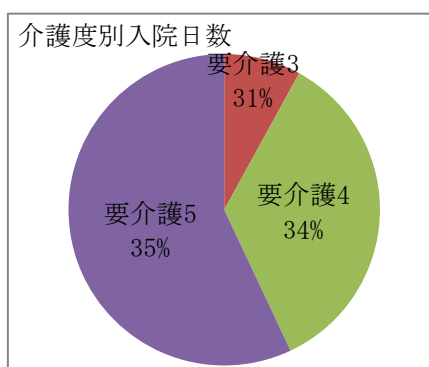
8月	0	1	1	1 (1)	0	0	0	0	1
9月	0	2	2	2 (2)	0	0	0	0	2
10月	0	0	0	0	1	0	0	0	1
11月	1	2	3	2 (2)	1	0	0	0	3
12月	1	2	3	4 (3)	0	0	0	0	4
1月	1	2	3	1 (1)	1	0	0	0	2
2月	1	1	2	2 (2)	1	0	0	0	3
3月	1	1	2	1 (1)	0	0	0	0	1
計	7	14	21	18 (16)	4	0	0	0	22

(4) 入居者の入院状況

入院日数は、要介護4，5で92%を占め、重度化による体力低下等の傾向が表れている。月別に見ると1月が一番多く、原因は、蜂窩織炎、肺炎による入院が主であった。

介護度別入院日数

月 区分	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
4月	0	0	0	7	27	34
5月	0	0	0	10	33	43
6月	0	0	17	20	8	45
7月	0	0	0	19	11	30
8月	0	0	0	12	6	18
9月	0	0	9	10	8	27
10月	0	0	0	2	0	2
11月	0	0	0	15	17	32
12月	0	0	0	23	18	41
1月	0	0	0	8	43	51
2月	0	0	6	3	38	47
3月	0	0	0	12	24	36
計	0	0	32	141	233	406



緑樹苑短期入所生活介護事業 事業報告

1. 総括

新型コロナウイルス感染拡大による、長期にわたる緊急事態宣言で、受け入れ制限を行ったことから、特に8月から9月にかけては受入なしの状況もあり、稼働率は減少した。

予防対策として、緑樹苑の通所とショートステイだけを定期利用する利用者を中心に稼働し、利用前日に本人の体調伺いや同居家族の発熱等の確認、そして当日は利用前の検温を実施してもらうよう、利用者及びその家族へご理解とご協力願いを行い、予防対策を徹底した。

職員に関しては、介護老人福祉施設と同様、感染対策マニュアルや国の感染拡大防止に関する通知等を踏まえ、感染拡大防止に努めるよう周知徹底した。

2. 運営状況

稼働率は、コロナ禍の中で利用自粛等があり、目標の50%を下回り31.7%となった。

3. 実施内容（介護老人福祉施設における事業と一体的に取り組む）

（1）人材育成 実施（介護老人福祉施設と同様に行う）

①施設内研修 実施

月	研修名	参加人数
4月	身体拘束適正化・虐待防止	1名
12月	看取り介護	1名
2月	事故防止対策	1名
3月	感染症予防	2名
	看取り介護	1名

（2）安定した稼働率の確保 未実施

コロナ禍の中で安定した稼働率の確保はできず、定期利用者も増やすことはできなかった。

（3）感染症対策及び業務継続に向けた取組の強化 一部実施

感染予防対策は、国及び県の通知等を踏まえ、嘱託医の指導も受けながら実施した。介護老人福祉施設と一体の業務継続計画（BCP）の作成は途中で、研修、訓練（シミュレーション）は実施することができなかった。

（4）利用者処遇

①安心できるサービスの提供 実施

利用者・家族が、穏やかで安心されるケアを目指し、その人らしい生活を送り、その人らしく生きる事を援助する。

ケアマネージャーの計画書に添って、サービスの提供を行った。

②利用者の安定利用 未実施

利用者、家族、ケアマネージャーより、安心、満足、信頼を感じてもらいリピーターを増やす。

コロナ禍の中で、新規利用者とリピーターを増やすことはできなかった。

③レク活動の充実 実施

利用者が安心して目的をもって利用できるよう、リハビリや季節の余暇活動、趣味活動の充実を図る。

規模を縮小して、季節の行事等を開催した。

④担当ケアマネージャーや関係機関との連携 未実施

利用者の状況等を細目に情報提供することにより、利用者等の最新の情報取得につなげる。関係機関との連携が高まることにより、地域包括ケアシステムの構築に寄与する。利用受入制限等があり担当ケアマネージャーとの連携は十分に取ることができなかった。

⑤利用終了時には、利用状況を家族やケアマネージャーに詳しく伝え、安心・満足・信頼を感じてもらい在宅へのスムーズな復帰を支援する。

利用終了時には利用状況表を家族へ手渡し、特変が生じた場合は、ケアマネージャーへの情報伝達を行った。

⑥健康管理 実施

健康管理については、特別養護老人ホーム看護職員等により健康状況に注意するとともに、健康保持のための適切な措置を講ずる。健康管理に関し、利用状況書に必要な事項を記入し退居時の際、ご家族に引き継ぐ。

日々の健康チェックを行い、変化時の家族への連絡、利用状況書への記入を行い、家族に引継ぎを行った。

⑦計画書に沿った機能訓練の充実 実施

機能訓練体制の充実・改善を図るために、サービス計画書に基づいて、個々人が望んでいる機能訓練やリハビリ室のみの訓練だけではなく、居室等で実際の生活に即した残存機能を活かした訓練を職員一緒になって支援し、個別ケアに努める。

ケアプランや本人の希望を基に、機能訓練員及び介護職員で訓練を行った。

⑧家族との連携 実施

家族、介護者からの介護相談への対応や、介護技術の助言により、介護負担の軽減につなげる。

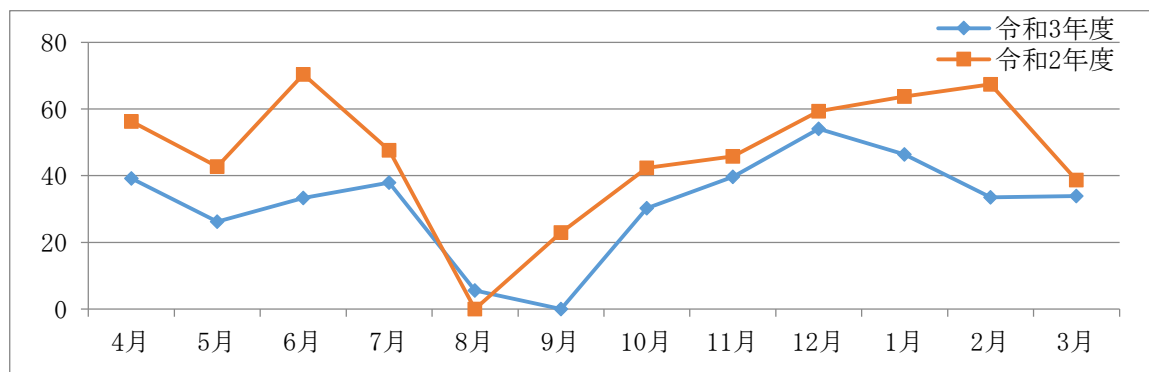
家族から特養への入所や介護負担軽減等の相談の対応を行った。

4. 利用状況について

(1) 月間利用状況

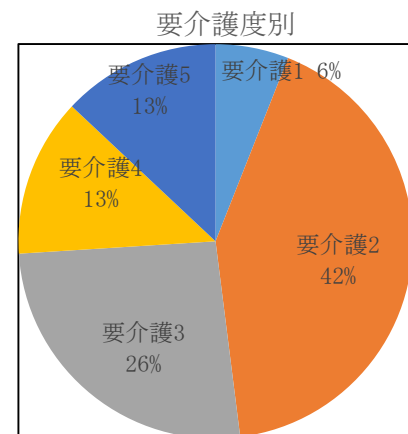
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
利用延人数	94	65	80	94	14	0	75	95	134
稼働率 (%)	39.2	26.2	33.3	37.9	5.6	0	30.2	39.6	54
月	1月	2月	3月	計					
利用延人数	115	75	84	925					
稼働率 (%)	46.4	33.5	33.9	31.7					

稼働率比較グラフ



(2) 要介護度別延べ人数

	男	女	計	割合 (%)
要介護 1	1	7	8	6
要介護 2	0	59	59	42
要介護 3	0	36	36	26
要介護 4	7	11	18	13
要介護 5	7	11	18	13
計	15	124	139	100



(3) 利用者平均要介護度

男	女	計
4.3	2.7	2.8

(4) 性別平均年齢

男	女	計
78.24	88.55	87.43

(5) 提供支援事業所別定期利用者数

	支援事業所	定期利用者（人）
1	中部徳洲会居宅介護支援事業所	3
2	中部サンケアネット居宅介護支援事業所	3
3	緑樹苑居宅介護支援事業所	2
4	翔南病院ケアプランセンター	2
5	有限会社在宅介護サービスひまわり居宅介護支援事業所	1
6	居宅介護支援事業所なかがみ	1
7	在宅介護サービスつなぐサポート	1
8	介護支援センター中部	1
9	沖縄ケアサポートセンター	1
10	具志川厚生園指定居宅介護支援事業所	1
11	ケアプランえんまある	1
12	ケアプラン愛聖	1
	計	18

緑樹苑給食センター 事業報告

1. 総括

令和3年度は、新型コロナウイルス影響も含む、世界的な需給変化で、原油価格高騰による物流費、包装資材の価格上昇により、食用油、小麦粉、生鮮食品はじめとするほとんどの食品食材が相次ぐ値上げや消耗品、燃料費の値上げもあり影響を受けた。施設及び在宅利用者においては、栄養バランスの摂れた季節折々のメニュー・地元食材を活用した沖縄料理・沖縄行事食・家庭的な食事の提供を行った。施設中庭にて沖縄薬草（ハンダマ・ニガナ・ふだん草）その他栽培を行い、薬草取り入れた健康長寿食薬膳料理を提供し健康増進を図った。

宅配（配食・給食）サービスの配達時には利用者とコミュニケーションをとり安否確認を行い、利用者との会話や表情について配達間で情報交換に努めた。自宅不在のケースが数件あり、迅速に担当ケアマネ・家族と連絡を図り適切な対応を行った。宅配利用者へ、母の日・父の日・敬老の日・その他行事等にプレゼントの提供を行い、今年度は、定期的におやつの提供も行った。

2. 運営状況

沖縄市の委託事業である、配食サービスは、年間食数 4,870 食提供を行い、1,529 食増で前年比 146%となった。給食サービスについては、1 日平均 120 食以上、月間延べ食数 3,580 食以上の目標とし、各地域型包括支援センターへチラシ等の営業・地域へポスティング等の営業活動を実施した結果、実績 1 日平均 113 食、月間平均延べ食数 3,390 食、年間 40,772 食となり 1,458 食減で前年比 96%となり、目標の食数は達成出来なかった。毎日利用の利用者の長期入院や亡くなられた方、施設入所等で契約終了者が多く食数減となった。

給食サービス	食数（個）/月	食数（個）/年
令和2年実績	3,519	42,230
令和3年実績	3,397	40,772

3. 実施内容

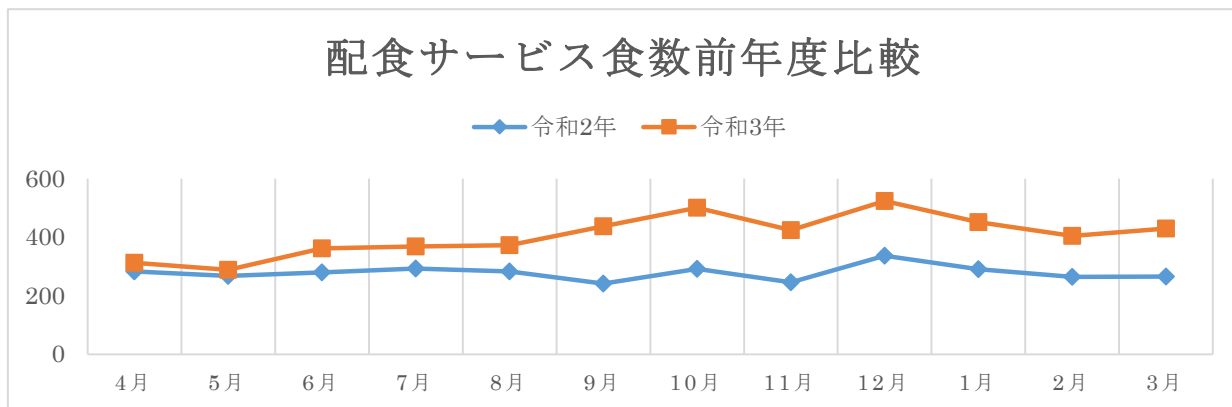
（1）利用者サービス

在宅の高齢者が安心して、健康で自立した生活をおくることができるよう「食」を通して、栄養バランスのとれた食事をお届けし、安否確認を行うことにより、食生活の自立及び健康の増進を図り、在宅生活での自立支援に努めた。

①配食サービス

市が認めた 65 歳以上の高齢者・高齢者世帯へ栄養バランスのとれた食事を月曜日～土曜日までの昼食又は、夕食上限 5 回まで宅配し安否確認を行った。

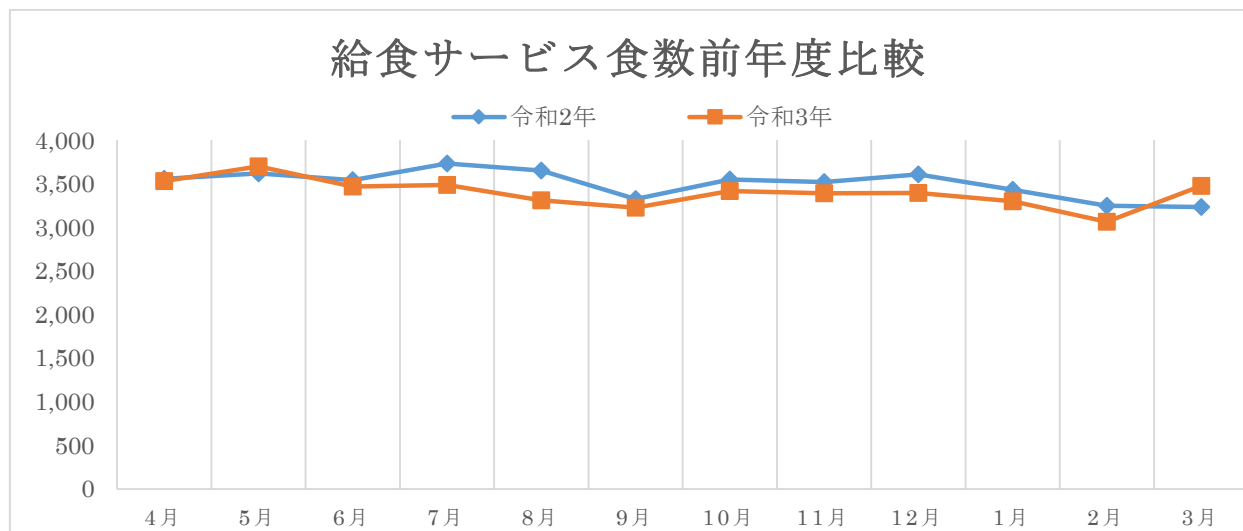
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計食数
令和2年	283	268	279	293	283	241	292	246	336	291	264	265	3,341
令和3年	312	288	362	368	372	437	500	424	523	451	404	429	4,870



②給食サービス

食事の調理が困難な方や、高齢者及び身体障害者の方に、月曜日～日曜日の昼食及び夕食の宅配を行った。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計食数
令和2年	3,556	3,621	3,542	3,733	3,654	3,325	3,549	3,520	3,608	3,431	3,250	3,234	42,023
令和3年	3,530	3,701	3,469	3,489	3,312	3,225	3,418	3,391	3,396	3,301	3,064	3,476	40,772



③栄養面、食事制限等に配慮しながら、毎日の食事が楽しめる日替わりメニュー、見た目・味にこだわったお食事を提供する。＜実施＞

・栄養バランスの取れた日替わりメニュー・味にこだわり・色彩の工夫等による盛り付け食欲の促進を図り、とろみかけや刻みなど、食べ安さへの配慮や利用者の個別の対応を行い

『食』への楽しみが持てるように努めた。

④電器圧力鍋導入し、業務の効率化を図り、幅広いメニューを取り入れ、食べる人も作る人も笑顔になる食事の提供を行う。＜実施＞

・電器圧力鍋使用した肉・野菜等の煮込み料理・高齢者向き柔らか軟菜食も取り組み、調理時間短縮で料理の幅を広げ効率的な食事の提供を行った。

⑤季節折々に合わせた食事・おやつ等、普段と違う、楽しく食事の提供できるよう企画・実践して行く。＜実施＞

・季節食材使用した食事・おやつの提供を行い、楽しく食事を頂けるように、正月、お盆、誕生会には、重箱容器、折容器を使用した食事、普段とは違う行事食の提供を行った。

⑥『介護食』講座を学び、『安全・安心・美味しく』利用者が楽しみになる、食べやすい介護食の研究開発に努める。＜未実施＞

・『介護食』通信講座は、検討した結果取りやめ、ネット配信での介護食・ソフト食・その他高齢者食の勉強会を行った。

（２）人材育成

① 職員一人ひとりが、責任とやりがいを持ち、成長できるよう、施設内外の研修に参加や勉強会等で、知識、技術共有への取り組みを実施した。

施設外研修

月	場 所	研修名	参加人数
5 月	緑樹苑（ネット配信動画） 緑樹苑	圧力鍋レシピ 料理勉強会	1 名 2 名
6 月	緑樹苑（Web）	スチコンレシピ 料理勉強会	1 名 1 名
7 月	緑樹苑（ネット配信動画） 緑樹苑	介護食 料理勉強会	1 名 2 名
8 月	緑樹苑（Web）	食材展示会	1 名
9 月	緑樹苑（Web）	HACCP 対応について 栄養士・調理員が進める食育・嚥下機能にあった食事形態について	3 名 1 名
11 月	緑樹苑（Web）	嚥下調整食の提供	2 名
1 月	緑樹苑（ネット配信動画）	沖縄料理 料理勉強会	1 名 2 名
2 月	沖縄コンベンションセン	食材展示会	1 名

	ター 緑樹苑 (Web)	ニュークックチル	1 名
3 月	沖縄ロワジースホテル 緑樹苑 (ネット配信動画)	食材展示会 ソフト食 料理勉強会	2 名 1 名 1 名

② 職員一人ひとりが、日々の業務の中で自ら考えて作業効率化をあげて実践した事を評価し、職員のモチベーションアップを図る <実施>

・調理・味付けの工夫・おやつメニューを考え実践した事に対して評価し、料理・介護食等の勉強会も行い職員のスキルを図った。職員が、安心して働けるように、コミュニケーションをとり、専門職としてやりがいのある職場環境に努めた。

③ 調理師資格取得試験準備講習・その他自主的な研修、取得に係る経費を助成行い、職員のステップアップを図る。<実施>

・調理師資格取得試験準備講習 1 名の職員に費用助成を行った。

(3) 安心安全な食事提供

①HACCP (ハサップ) 危険分析重要管理点の取り組み <実施>

衛生管理に取り組み、実行すべき衛生管理計画書を作成し実行内容記録実施した。

②衛生管理 <実施>

・貯水槽の清掃 4 月

・害虫駆除 (全館) 5 月・11 月・年 2 回実施。

害虫駆除 (厨房) 2 月・5 月・8 月・11 月・年 4 回実施。

(4) 新型コロナ感染予防対策

毎日の申し送りで県内の感染状況を情報共有し、新型コロナウイルスへの認識・感染対策を含めた理解を持ち、手洗い・手指消毒、検温、マスク着用を実施し、食堂ホール・栄養士室、休憩所、宅配車両のこまめな換気を徹底して感染予防に努めた。配達時は、アルコール消毒を携帯し、配達ごとに手指消毒を行い感染予防に努めた。

在宅サービス 緑樹苑デイサービスセンター 事業報告

1. 総括

5 月には沖縄県緊急事態宣言の発令があり、本人・家族の意向によりデイサービス利用を自粛する利用者が増え、8 月には延べ利用者数が 512 名にまで減少した。事業所や車両の消毒や換気、隣席とはパーテーションで仕切る等コロナウイルス感染対策を行いながら事業を継続するが、8 月に利用者 1 名が新型コロナウイルスの感染があり、翌日は 1 日休業した。職員 1 名が濃厚接触者となったが、他の職員や利用者に濃厚接触者、感染者はなく感染拡大はなかった。新型コロナウイルス感染対策を徹底し、学童クラブとの交流会を実施したことや、デイサービス内での行事等は計画どおり実施しコロナ禍の中でも利用者が楽しんでもらえるように努めた。

2. 運営状況

令和 3 年度の事業目標、1 日平均 29 人以上、月間延利用者数 720 人以上に対し、実績 1 日平均 25 人、月間平均延利用者数 638 人と事業目標は達成出来なかった。

まん延防止等重点措置や緊急事態宣言等で利用者本人や家族の意向により利用自粛が 15 名、利用日数を減らした利用者が 8 名、延べ 277 日。1 日平均 7 名の利用減となった。

新規利用者 19 名に対し、施設入所や長期入院等で利用終了者は 15 名となった。

3. 事業状況

(1) サービスの質の向上

①医療依存度が高い利用者も在宅生活が維持できるよう、医療的ケアのある利用者の受け入れなど総合的なサービス提供に努める（経管栄養、喀痰吸引、インスリン注射等）

→医療的ケアのある利用者の受け入れに関するチラシを作成し、居宅介護支援事業に実績と共に届けた。担当利用者のいない居宅介護支援事業所への営業活動も行い、インスリン注射（2 名）、経管栄養（2 名）、喀痰吸引・透析（1 名）の新規利用者獲得に繋げることができた。

②利用者の口腔機能低下や低栄養に対し重度化の予防・維持・回復等に繋げられるよう、口腔機能及び栄養のスクリーニングの取り組みを行いケアマネージャーと連携を図る。

→利用者の毎月の体重測定に加え、職員が利用者の口腔状態等を観察（入れ歯の有無、食事形態、食事摂取状況等）所定の様式を用いて、担当ケアマネへ報告すると共に、必要時は口頭で伝え、連携を図る事が出来た。口腔・栄養スクリーニング加算Ⅰの算定を 10 月より取得している（令和 3 年新加算、4 月～9 月観察、半年後算定で初回取得は 10 月）

③レク活動をグループ分けし、利用者が選択する事でより楽しく参加できるようにする。

・利用者の外出機会の確保や気分転換が図られるよう、ミニドライブを定期的実施する。

→午後のレク活動では農作業グループや、園内散歩グループなど屋外活動を多く取り入れたレク活動を提案し利用者に選んでもらった。

利用者が楽しみにしているミニドライブは感染状況を見据えつつ4月、11月に実施し、利用者から好評を得た。

④新型コロナウイルス感染状況を見据えつつ、可能な方法で交流を図り世代間交流や地域ボランティア等との関りを楽しむ。

→地域ボランティア等の受け入れは難しく交流は行っていない。学童クラブとはガラス越しに「新一年生お披露目会」や「ハロウィーン交流会」、敬老会にはタブレット端末を活用し児童の動画メッセージを大型スクリーンに使用しできる限り可能な交流を検討し実施した。

⑤食事無料化を継続する。

→新しくチラシを作成し居宅介護支援事業所へ届けた、経済的な理由からサービスを控えている利用者の担当ケアマネから相談があり、新規獲得につながったケースもあった。

⑥利用者へのモニタリングの実施。

- ・定期的にモニタリングを行い、意向に沿った活動プログラムの提供に努め、家族やケアマネジャーとの連携で達成度を確認する。

→9月、3月に実施。利用者からは、ドライブ等の外出を多くして欲しいとの意見が多く、また、畑作業に参加している利用者からは野菜や草花の種類を増やしたいとの意見もあった。今後は利用者の家族からのアンケートを実施したい。

(2) 人員の確保及び育成

①法人内外の研修や勉強会への参加。

- ・法人内の専門職や外部講師等を視野に入れた研修の取り組み、オンライン研修も積極的に参加する。

→法人新人研修3名参加、管理者研修1名参加、専門職（看護師や作業療法士）の研修案内がなく研修参加はなかった、研修案内を常に確認し積極的に参加する。

②資格取得に係る経費の助成を行う（介護福祉士、認知症介護実践者研修等）

- ・資格者を増やし利用者サービスの向上や加算の取得に繋げる、

→認知症介護実践者研修に職員を1名派遣した（5日間のリモート研修と4週間自施設実習）、事業所内で学びを共有し認知症に対する理解を深めた。令和4年は認知症介護リーダー研修に派遣予定、認知症加算の取得に取り組む。

③職員が学びたいことを企画し自主的な部署内勉強会（月1回）を実施する。

→毎月の勉強会では、担当者を割り振りし、講師を務め自ら資料の作成等、行うことができた。まだ慣れない職員もいるが継続して行っていく。

(3) 業務改善

①タブレット端末のさらなる活用法に向けて取り組む。

→タブレット端末を活用し学童クラブや他県のデイサービスとオンライン交流を行った。

利用者の褥瘡や皮膚トラブルなどの状態をご家族、ケアマネと情報を共有することができた。職員の研修は動画配信を用いて実施した。

タブレット端末を活用し脳トレーニングを行う利用者からの満足度は高かった。

②個別機能訓練加算の算定要件に応じた 5 人程度以下小集団を、機能訓練員と介護職員が連携した取り組みをする。

→令和 3 年度の介護報酬改定で新たに個別機能訓練加算の算定要件が変更になったが、機能訓練員と介護職員で連携して機能訓練を行い、算定要件を満たすことができた。

(4) リスクマネジメント

①防災マニュアルに沿って法人内の防災訓練やデイサービス内の避難訓練を実施する。

→毎月の防災訓練では、災害（地震、火災、台風等）があった場合の避難場所や留意事項等利用者を交えて確認し、意識づけを図った。また、法人内の防災訓練では職員を派遣。デイサービス内でも避難誘導訓練を 11 月に実施した。

②利用者送迎時における交通法規の遵守。

- ・出勤時には、アルコールチェック及び免許証携帯の確認を行う。
- ・安全運転の講習会等の実施。
- ・毎朝の車両点検、老朽化した車両は購入を検討し、利用者の安全な送迎に努める。

→出勤時にはアルコールチェック及び免許証携帯の確認、車両の点検を実施し記録を記録をしている。また、老朽化した車両 1 台の買い替えを行った。10 月に外部講師（損害保険事務所）を依頼し安全運転講習会を開催した。デイサービス職員の他 30 名の職員（在宅サービス）が参加し利用者送迎時の安心・安全について意識を高めた。

③非常災害対策に向け、地域との連携が図られるように、地域との関係作りに努める。

→自治会・近隣等地域との連携を図ることはできなかった、今後は事業継続の観点から地域との構築が必要になることからコロナ状況を確認しながら、地域包括支援センターと連携を図りすすめていきたい。今後の課題として取り組みを継続していく。

④デイサービス内で感染症対策委員会を設置し定期的を開催をする。

→デイサービス内での感染症対策委員会を設置し、6 月、1 月（在宅サービス参加）に委員会を開催した。

(5) 新型コロナウイルス感染症予防対策

①定期的なマニュアルの確認や見直し、定期的に会議を開催する。

→毎朝の申し送りで県内の感染状況の確認。法人の感染症対策委員会やデイサービス内の感染症対策委員会の情報を全職員で共有し、感染症予防対策に繋げることができた。

- ②職員の検温・マスク着用・消毒の徹底、三密を避ける行動に努める。
 →出勤時の体温測定及び休憩後の体温測定。常時マスクの着用や入浴介助時にはフェースシールドの装着を行っている。職員は不要不急以外の外出自粛に努めた。
- ③利用者の送迎前の検温・送迎車両やデイサービス内は常時換気を実施。
 →送迎車両に乗る前に検温を行い、車両の窓を開け換気を実施。送迎に出る前には車両の消毒作業を行い感染症予防対策に努めた。
- ④密にならない席の配置や、食事・おやつ時にはパーティションを設置する。
 →密にならない席の配置やテーブルには常時パーティションを設置している。
 食事やおやつ前後には各テーブルを職員がアルコール消毒を行い、利用者へ手洗いの他にアルコールで手指消毒を実施している。
- ⑤利用者へのマスク着用の促しや、手洗い・消毒等の周知を行う。
 →利用者へのマスク着用の声掛けは全職員で行い、手洗い、アルコール手指消毒も徹底して行っている。

4. 行事・活動等

(行事・イベント)

4 月	手作りおやつ会 (10 日)	26 名
	カフェタイム (15 日)	25 名
	誕生会 (20 日)	30 名
	オンライン体操～地域の専門家や仲間が集う会～神奈川県、沖縄県と中継 (26 日)	26 名
	浜下りドライブ (26 日)	10 名
	浜下りドライブ (27 日)	11 名
5 月	母の日会 (7 日)	29 名
	手作りおやつ会 (15 日)	23 名
	カフェタイム (17 日)	23 名
	誕生会 (25 日)	28 名
6 月	手作りおやつ会 (8 日)	28 名
	カフェタイム (15 日)	27 名
	父の日会 (19 日)	23 名
	誕生会 (28 日)	27 名
7 月	七夕会 (7 日)	24 名
	カフェタイム (15 日)	23 名
	誕生会 (19 日)	29 名

	手作りおやつ会（28 日）	25 名
8 月	カフェタイム（13 日）	21 名
	誕生会（17 日）	20 名
	手作りおやつ会（26 日）	16 名
9 月	手作りおやつ会（10 日）	22 名
	カフェタイム（15 日）	19 名
	敬老会（20 日）	26 名
	誕生会（23 日）	25 名
	秋まつり（28 日）	29 名
10 月	手作りおやつ会（8 日）	28 名
	運動会（11 日）	24 名
	誕生会（22 日）	29 名
	カフェタイム（27 日）	25 名
	学童交流会「ハロウィーン交流会」（30 日）	27 名
11 月	避難誘導訓練（10 日）	23 名
	手作りおやつ会（11 日）	28 名
	カフェタイム（15 日）	25 名
	遠遊会（16 日）	16 名
	遠遊会（19 日）	19 名
	誕生会（22 日）	26 名
12 月	手作りおやつ会（10 日）	25 名
	カフェタイム（15 日）	25 名
	クリスマス忘年会（24 日）	28 名
	誕生会「学童交流会」（28 日）	27 名
1 月	新年会「学童交流会」（4 日）	26 名
	書初め会（6 日）	22 名
	手作りおやつ会（10 日）	20 名
	職員による民謡ショー（12 日）	25 名
	カフェタイム（20 日）	21 名
	職員による民舞ショー（24 日）	18 名
	誕生会（29 日）	22 名
	節分、豆まき（3 日）	21 名

2 月	手作りおやつ会（9 日）	25 名
	誕生会（15 日）	23 名
	カフェタイム（25 日）	29 名
3 月	三線の日、職員による三線ショー	28 名
	手作りおやつ会（10 日）	24 名
	カフェタイム（16 日）	28 名
	誕生会（22 日）	30 名

（職員研修、勉強会等）例

月	場 所	研修・勉強会名	参加人数
4 月	緑樹苑デイサービス	部内会議、勉強会「認知症について」（13 日）	12 名
5 月	緑樹苑デイサービス	部内会議、勉強会「感染症について」（3 日）	8 名
6 月	緑樹苑デイサービス	部内会議、勉強会「緊急時対応について」（7 日）	10 名
	緑樹苑デイサービス	デイ感染症対策委員会（8 日）	5 名
7 月	緑樹苑デイサービス	部内会議、勉強会「高齢者虐待防止について」（5 日）	8 名
	緑樹苑会議室	新人職員研修（14 日）	3 名
8 月	緑樹苑デイサービス	部内会議、勉強会「プライバシー保護について」（3 日）	9 名
9 月	緑樹苑デイサービス	部内会議、勉強会「非常災害・防災について」（6 日）	10 名
	学童クラブ	新人研修Ⅱ（16 日）	2 名
10 月	緑樹苑デイサービス	部内会議、勉強会「感染症予防及びまん延防止について」（5 日）	10 名
	学童クラブ	新人研修Ⅲ（5 日）	2 名
	緑樹苑デイサービス	安全運転講習会（7 日）	12 名
	学童クラブ	新人研修Ⅱ（12 日）	1 名
11 月	緑樹苑デイサービス	部内会議、勉強会「事故対応、予防について」（5 日）	
12 月	緑樹苑デイサービス	部内会議、勉強会「介護予防、レクリエーションについて」（6 日）	9 名
	緑樹苑会議室	ケアカルテ説明会	2 名
1 月	学童クラブ	新人研修（5 日）	1 名
	学童クラブ	デイ感染症対策委員会（6 日）	3 名
2 月	緑樹苑デイサービス	部内会議、勉強会「接遇について」（6 日）	9 名
	学童クラブ	主任研修（10 日）	1 名
	学童クラブ	中堅職員研修（14 日）	1 名

(その他)

4 月	安全衛生委員会 (15 日)
9 月	福祉サービスに関する苦情解決セミナー 1 名
10 月	九州連老協 通所介護部会セミナー 「通所介護事業所における BCP の作成と L I F E の活用について」 1 名 安全衛生委員会 (21 日)
11 月	認知症介護実践者研修 1 名 安全衛生委員会 (18 日)
12 月	研修担当者オンラインセミナー 「効果のある研修を実施するための知識と技術」 1 名 安全衛生委員会 (16 日) 褥瘡ケアオンラインセミナー 3 名 ケアカルテ説明会 2 名
2 月	上級リスクマネージャー実践講座 1 名
3 月	安全衛生委員会 (17 日) 法人防災訓練 2 名

5. 利用状況について

(1) 年間実績 (利用日数)

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月
日数	26	26	26	26	25	26	26
総合事業	26	34	29	34	11	17	26
要介護	634	633	621	641	489	579	639
延べ人数	660	667	650	675	500	596	665
稼働率	72.5	73.3	71.4	74.1	57.1	65.4	73.1
日平均	25.3	25.6	25	26	20	22.9	25.5
月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計/平均	
日数	26	26	24	24	27	308	
総合事業	22	33	21	23	27	303/25	
要介護	645	610	546	580	729	7346/612	
延べ人数	667	643	567	603	756	7649/637	
稼働率	73.3	71.5	67.5	71.7	80	70.9	
日平均	25.6	24.7	23.6	25.1	28	24.8	

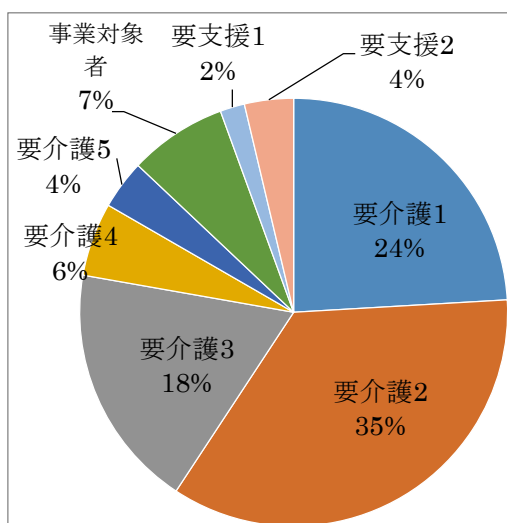
※稼働率は定員 35 名で算

(2) 利用者の性別、要介護度別、年齢別の状況

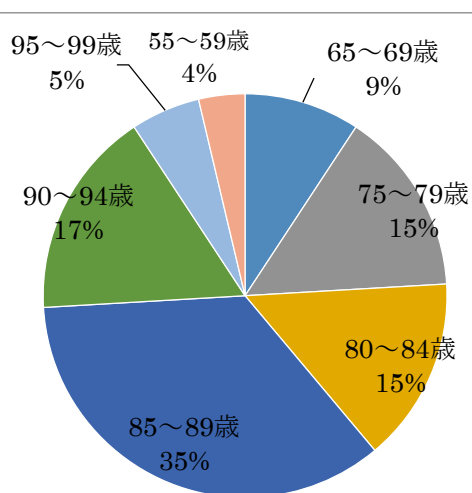
	事業対象者		要支援 1		要支援 2		計		総合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	
65～69 歳	0	0	0	1	0	0	0	0	1
70～74 歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0
75～79 歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0
80～84 歳	1	1	0	0	0	1	1	2	3
85～89 歳	1	1	0	0	0	1	1	2	3
90～94 歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0
95～99 歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0
100 歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	2	2	0	1	0	2	0	2	7
平均年齢	84	83	0	69	0	85	84	80.2	7

	要介護 1		要介護 2		要介護 3		要介護 4		要介護 5		計		総合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
55～59 歳	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1	2
65～69 歳	1	0	0	0	1	1	0	0	1	0	3	1	4
70～74 歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
75～79 歳	2	1	1	1	0	3	0	0	0	0	3	5	8
80～84 歳	2	0	0	2	0	1	0	0	0	0	2	3	5
85～89 歳	0	5	2	7	0	1	0	1	0	0	2	14	16
90～94 歳	0	2	1	3	1	1	0	0	0	1	2	7	9
95～99 歳	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	3	3
100 歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	5	8	4	15	2	8	1	2	1	1	13	34	47
平均年齢	77	87	85.5	88	79.5	82.5	57	71	68	90	77.6	85.6	83.4

年齢別状況



介護度別状況



(3) 新規・終了状況

	新規			終了				
	要支援	要介護	計	死亡	医療機関	施設入所	その他	計
4月	1	0	1	0	0	0	0	0
5月	1	1	2	0	0	1	0	1
6月	0	1	1	0	1	3	0	4
7月	0	1	1	0	0	0	0	0
8月	0	1	1	0	0	1	1	2
9月	0	0	0	1	0	1	0	2
10月	0	1	1	0	0	3	0	3
11月	2	2	4	0	1	1	0	2
12月	1	2	3	0	0	0	0	0
1月	0	0	0	0	0	0	0	0
2月	0	2	2	0	1	0	0	1
3月	0	3	3	0	0	1	1	2
合計	5	14	19	1	3	11	2	17

緑樹苑居宅サービス事業所（訪問介護・障害福祉）事業報告

1. 総括

登録ヘルパー1名の休職（疾病）、と常勤訪問介護員の休職（復職後は時短就業）はあったが、7月には常勤訪問介護員1名を採用し、利用者のサービス提供時間の拡充や訪問回数を増やす等ニーズに応えることができた。利用者の体調確認や消毒の徹底、部内勉強会の開催やサービス提供責任者が定期的にモニタリングを実施し、家族・関係機関・ケアマネ等との連携を密に取り質の高いサービスの提供に努めた。8月に1名の利用者が新型コロナウイルス感染症の感染があり訪問ができなかったことや、利用者の同居家族が感染し利用者が濃厚接触者と特定され、陰性の確認まで訪問できない利用者が5名いた。有料施設利用者の感染（利用している通所介護の感染）等もありキャンセルが多い一年であった。また、職員1名が感染したことや、家族が感染し濃厚接触者となったことで就業制限をしたことや保育園の閉園が数回ありその都度就業できない状況はあったが、他訪問介護員が代行訪問をすることでケアは支障なく行えた。

2. 運営状況

訪問介護目標40件に対し、実績31件。総合事業45件に対し、実績27件。介護保険、総合事業収益は10.2%減となる。障がい福祉サービスの目標15件に対し、11件の実績。事業収益30%減となり目標は達成できなかった。新規契約21件あったが、利用者が自宅での転倒で入院となり、利用することなく終了したケースが1件。数回利用した後、ご家族の介護負担増から施設入所したケースが4件。死亡2件と継続して利用できなかったケースが7件あった。

3. 事業状況

（1）サービスの質の向上

- ①サービス提供時間の拡充及び既存利用者のサービスサービス提供時間にも柔軟に対応する。
→利用者からの要望や状態等を確認しながら必要に応じて担当ケアマネと連携し提供時間や訪問回数を増やすことができた。
- ②接遇に対する自己評価を行い接遇への意識の高いサービスを提供する。
→3月に自己評価を実施。評価をもとにサービス提供責任者と面談を行い全員が接遇への意識を統一し質の高いサービスの提供ができた。
- ③定期的にモニタリングを行い、
利用者の状態をケアマネージャーに報告し情報を共有することにより、質の高いサービスが提供できるように努める。
→サービス提供責任者を中心に利用者のモニタリングを行い、担当ケアマネと情報を共有することで本人の状態やニーズに合った質の高いサービスが提供できた。

④他事業者が関わっているケースについては連携を密にし、利用者への切れ目ないサービスの提供に努める。

→担当ケアマネを中心に他事業所とも情報を共有した、利用者の状態変更時も早めに情報を共有し必要なサービス提供ができるように努めた。

⑤認知症への対応能力を高め、認知症利用者の地域でのより良い生活の維持を図る。

→認知症介護実践者研修に職員1名を派遣。認知症について他職員へアドバイス等を行い、認知症のある利用者が在宅で生活が維持できるよう努めることができた。

令和4年度は認知症介護リーダー研修を計画、認知症専門ケア加算（令和3年新加算）の取得に繋げたい。

（2）人材の確保・育成

①訪問介護員の確保に向け、職員への紹介の促しや、求人誌、新しく横断幕やのぼりを作成し確保を図る。

→7月に常勤訪問介護員1名を採用した。のぼり旗を見て問い合わせもあり、無資格者に対しては資格取得の助成等を検討し面接を行っていく。

②毎月の定例会及び会議等を行い、接遇及び困難ケース等の事例検討、勉強会を実施。

→毎月の定例会で利用者の身体状況や生活状態などの変化がないかの確認や困難ケースの事例等を用いて勉強会を実施した。

③サービス提供責任者と登録ヘルパーとの定期的な個別面談を行い、心身の状況確認やコミュニケーションを深め「辞めない職場」作りに努める。

→サービス提供責任者と登録ヘルパーの面談は月1回以上行った、必要に応じて携帯電話等でコミュニケーションを取っている。令和3年度の退職者はゼロ人であった。

（3）業務改善

①利用者に係るスケジュールの見直しを行い、効率的な派遣を図る。

→スケジュールの活動予定表をサービス提供責任者で交代して作成し、効率の良い派遣が図られるよう調整をし、突発的な代行依頼なども対応できた。

②ICT化を推進し、タブレット端末によるシステムの導入に向け勉強会等を実施する。

→タブレット端末を活用した記録の入力やシステム導入に向けて勉強会を実施した。活用に向けて職員の意識も変化してきたことから、導入に向けて進める。

（4）リスクマネジメント

①利用者個々に想定される事故や症状の急変時に訪問介護員が適切な対応が取れるように部内会議や定例会で検討していく。

→訪問時に利用者の急変や事故等に遭遇した時も訪問介護員が不安にならず冷静に対応できるようにサービス提供責任者との面談時や定例会などで利用者の状態について定期

的に情報を共有した。

②緊急時マニュアル等を用いて、事故の未然防止を図る。

→定例会で勉強会を実施。利用者個々に想定されるに事故や緊急時に対して検討を行い必要に応じて緊急時マニュアルの見直しを行っている。

(5) 新型コロナウイルス感染予防対策

①職員は毎日検温し検温簿に記録する（出勤前。出勤時及び利用者宅訪問前に検温）

→出勤時や午後の体温測定その他に利用者宅への訪問前にも体温測定をおこなっている。

②マスクは常時着用、フェイスシールド、ガウン及びアルコール消毒の携帯。

→マスクは常時着用と共に感染症予防対策の用具を常時携帯し訪問している。

③ケアに入る前には手指消毒、室内の換気と利用者の検温を行う。

→利用者宅の前で手指消毒、利用者へのマスクの着用や訪問宅での換気を依頼しケアを開始している。

④三密を避ける行動に努める。

→職員に対し、プライベートでも不要不急の外出や行動自粛に努めた。

5. 行事・活動等

(職員研修、勉強会等)

月	場 所	研修・勉強会名	参加人数
4 月	デイサービス	課内勉強会 「感染症マニュアルについて」 実技指導 「感染防護具の脱着方法」	15 名
5 月	デイサービス	課内勉強会 「高齢者介護における緊急時対応」 実技指導 「心肺蘇生胸骨圧迫法」	15 名
6 月	自宅学習	課内勉強会 「ヒヤリハットの分析」 実技指導 「移動・移乗の介助術」	15 名
7 月	自宅学習	課内勉強会 「虐待防止について」 実技指導 「うつらない・うつさない介助術」	17 名
8 月	自宅学習	課内勉強会 「個人情報取り扱いとプライバシーの理解」 実技指導 「排泄介助術」	17 名
9 月	自宅学習	課内勉強会 「クレーム、苦情対応について」 実技指導 「姿勢と技術」	17 名
10 月	デイサービス	課内勉強会 「認知症の理解と対応」 実技指導 「口腔ケアについて」	17 名
11 月	デイサービス	オンライン講習「安全運転講習」 ～交通事故を減らす2つの習慣～	18 名

12 月	デイサービス	課内勉強会 「ボディメカニクスについて」 実技指導 「ボディメカニクスの実践」	18 名
1 月	自宅学習	課内勉強会 「倫理・法令順守について」 実技指導 「ベッドメイク技術」	18 名
2 月	デイサービス	課内勉強会 「事故発生時の対応・報告」 実技指導 「事故発生時の対応グループワーク」	18 名
3 月	デイサービス	課内勉強会 「介護従事者の接遇マナー」 実技指導 「介護業務に関するチェックリスト」	18 名

6. 利用状況について

(1) 年間実績 (利用日数)

	介護保険				障害福祉サービス			
	訪問介護		総合事業サービス		居宅サービス		移動支援	
	利用 者数	提供 回数	利用 者数	提供 回数	利用 者数	提供 時間	利用 者数	提供 回数
4 月	32	430	21	142	9	150	0	0
5 月	31	432	22	143	10	212	0	0
6 月	31	420	22	151	9	215	0	0
7 月	37	399	21	149	10	215	0	0
8 月	35	421	22	151	10	232	0	0
9 月	33	392	21	150	10	222	00	0
10 月	32	387	22	147	12	238	1	4
11 月	32	364	21	149	13	229	1	2
12 月	30	355	21	148	13	236	1	7
1 月	29	381	22	141	12	223	1	5
2 月	26	334	22	142	12	219	1	4
3 月	31	411	21	154	12	244	1	4
合計	382	4726	279	1914	132	2635	6	28
平均	31	393	21	147	11	219	0.5	2.3

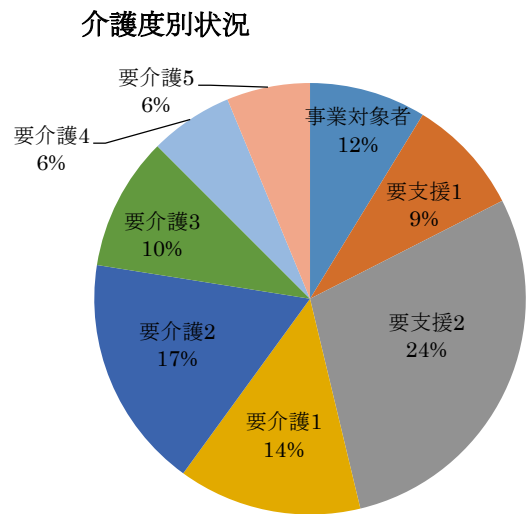
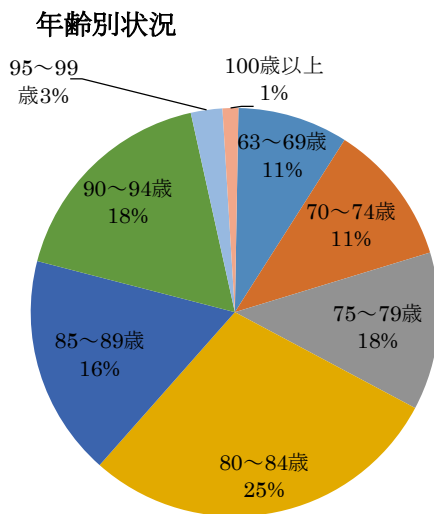
(3) 利用者の性別、要介護度別、年齢別の状況

総合事業

	事業対象者		要支援 1		要支援 2		計		総合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	
63～69 歳	1	0	0	0	0	0	1	0	1
70～74 歳	0	0	1	0	2	3	3	3	6
75～79 歳	1	0	0	0	0	1	1	1	2
80～84 歳	1	2	0	3	1	1	2	6	8
85～89 歳	0	1	1	1	1	7	2	9	11
90～94 歳	1	0	0	1	1	5	2	6	8
95～99 歳	0	0	0	0	0	1	0	1	1
100 歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	4	3	2	5	5	18	11	26	37
平均年齢	81	83	79	86	80	86	79	83	84

要介護者

	要介護 1		要介護 2		要介護 3		要介護 4		要介護 5		計		総合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
55～64 歳	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
65～69 歳	0	1	0	1	1	1	0	0	0	1	1	4	5
70～74 歳	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	3	3
75～79 歳	1	0	1	3	0	1	0	1	0	1	2	6	8
80～84 歳	3	2	0	3	2	2	0	2	1	0	6	9	15
85～89 歳	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	3	3
90～94 歳	1	1	1	2	0	0	0	1	0	0	2	4	6
95～99 歳	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1
100 歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
計	5	6	2	12	3	5	0	5	2	3	12	31	43
平均年齢	83	79	86	82	77	76	0	83	85	73	90	82	80



(3) 新規・終了状況

介護保険

	新規			終了				
	総合事業	要介護	計	死亡	医療機関	施設入所	その他	計
4月	1	1	2	0	0	0	2	2
5月	0	0	0	0	0	0	0	0
6月	0	0	0	0	0	0	0	0
7月	0	3	3	1	0	0	0	1
8月	1	0	1	0	0	1	0	1
9月	0	0	0	1	1	0	0	2
10月	0	0	0	2	0	1	0	3
11月	2	1	3	0	0	1	2	3
12月	3	2	5	0	0	1	1	2
1月	2	0	2	1	0	3	1	5
2月	2	1	3	0	0	0	0	0
3月	0	2	2	0	1	0	1	2
合計	11	10	21	5	2	7	7	21

障害福祉サービス

	新規		終了				
	支援費	計	死亡	医療機 関	施設入 所	その他	計
4 月	1	1	0	0	0	0	0
5 月	1	1	0	0	0	1	1
6 月	0	0	0	0	0	0	0
7 月	1	1	0	0	0	0	0
8 月	0	0	0	0	0	0	0
9 月	0	0	0	0	0	0	0
10 月	2	2	0	0	0	0	0
11 月	1	1	0	0	0	0	0
12 月	0	0	0	0	0	0	0
1 月	0	0	0	0	1	0	1
2 月	0	0	0	0	0	0	0
3 月	0	0	0	0	0	0	0
合計	6	6	0	0	1	1	2

緑樹苑指定居宅介護支援事業所 事業報告

1. 総括

令和3年度も新型コロナ感染拡大防止の観点から、施設入所中の利用者に関しては面会自粛があり、利用者と電話を通してのモニタリングや施設職員からの聞き取りでモニタリングを行った。自宅在住の利用者に関しても、モニタリングや利用票の受け渡しは家族の意向により玄関先での面談やポストへの投函が主になった。サービス担当者会議は電話やFAXでの開催希望も多く、顔を合わせる機会が減少し利用者や家族、関係機関等との連携の取り方に変化があった。8月に介護支援専門員1名がコロナウイルスに感染したが、その他職員・利用者への感染拡大はなかった。施設入所中の利用者3名、自宅在住の利用者1名が陽性となり、内1名（施設入所）が搬送先の病院で死亡した。昨年、新型コロナの影響で実施できなかった主任介護支援専門員更新研修がオンラインで開催され、2名の主任介護支援専門員が参加し資格更新を行った。研修会や連絡会等はすべてオンラインとなり介護支援専門員同士の情報交換や交流が減少した1年でもあった。

2. 運営状況

令和3年度は、平均プラン件数が120件（介護104件、予防・総合16件）目標を立て各関係機関への営業活動を行っていたが、施設入所、死亡、新型コロナウイルス感染の影響で利用者、家族の意向で介護サービスを自粛するケースもあり、月平均プラン件数が111件（介護98件、予防・総合13件）で目標を達成することができなかった。

3. 事業状況

（1）サービスの質の向上

<目的>

介護保険制度や地域資源を活用し在宅生活を維持することができる。

<内容>

- ①利用者の意向・選択及び自立支援を基本としたサービスを計画する。
→利用者や家族の意向を尊重し、その能力に応じ住み慣れた地域で自立した生活が送れるよう利用者の立場に立った居宅サービス計画書の作成に努めた。
- ②多様な主体が提供する生活支援サービスが包括的に提供されるように努める。
→民生委員による電話での一人暮らしの安否確認や配食サービス・認知症安心登録・介護タクシー等介護保険対象外のサービスを居宅サービス計画書に位置づけた。
- ③関係機関との情報共有や連携を図り、スムーズに支援が行えるように努める。
→家族と疎遠状態や認知症が進行した利用者等に関して包括支援センターやサービス事業所、主治医等、各機関に相談し情報共有や必要時は会議を開催する等常に連携を図り、支援に努めた。

④法人内外の研修に参加し、新しい情報や専門職としての知識の習得に努める。

→法人内のネット配信研修では、主任や中堅研修に2名参加、介護支援専門員沖縄支部・沖縄県支援専門員協会等の研修に参加し、介護保険の最新情報の収集や専門職としての知識の習得に努めた。

⑤24時間連絡体制を確保し、緊急時はいつでも連絡が取れるようにする。

→各介護支援専門員が24時間携帯電話を所持し、緊急時はいつでも連絡が取れる体制を確保した。本人、家族、関係機関等から夜間や休日に38件の電話を受けサービス調整や相談対応を行った。

(2) 人材の確保及び育成

<目 的>

経験値に見合わせた段階的なスキルアップを図る。

<内 容>

①各介護支援専門員の経験値に応じた個別の研修計画を策定し実施する。

→介護支援専門員の経験に応じた研修計画を策定し、計画に沿って研修に参加した。主任介護支援員更新研修に2名が参加し主任の資格更新を行った。

②法人内外の研修に参加し、事業所で周知する（状況に応じてオンライン研修に参加）

→沖縄県医師会・中部地区医師会在宅医療介護推進事業等による外部研修に参加し、新型コロナウイルス感染症対策の最新情報や看取り等について学び、事業所内で更に勉強会を開催し周知した。

③事業所内で週1回以上の勉強会や他法人居宅介護支援事業所との事例検討会を開催し多角的な視点で問題解決に努める。

→毎週1回、ケース検討会や利用者に関する情報共有・伝達等に関する勉強会を開催した。6月に他法人居宅介護支援事業所と合同事例検討会を開催し、意見交換や情報交換を行うことで援助方法について違う視点から学ぶことができた。

④地域型包括支援センターが開催する「自立支援・地域支援会議」の事例提供や事例検討会を開催し多角的な視点で問題解決に努める。

→事業所内では解決が困難なケースについて、4月に地域包括支援センターに地域ケア会議の開催を依頼した。多機関・多職種から専門的な助言を受け、多角的な視点で問題解決に努めた。

⑤介護支援専門員実務研修を受け入れ、専門職の養成や介護支援専門員獲得を図る。

→新型コロナウイルスの影響にて、「介護支援専門員実務研修にかかる臨時的な取扱い」で実習が免除になったことから実習生の受け入れはなかった。実習後に採用に繋がることも多く、今後実習の受け入れがなくなり介護支援専門員の獲得が課題になる。

(3) 業務改善

<目 的>

ICT を活用し業務の効率化を図る。

<内 容>

- ①タブレット端末を活用し利用者や家族への説明を分かりやすくする。外出先での会議記録はタブレット端末に入力し時間の効率化を図る。
→オンライン研修にタブレット端末を活用し参加をしている、タブレット端末の動画を活用することで福祉用具の使用方法やサービスの紹介等が利用者や家族にわかりやすく説明ができた。

(4) リスクマネジメント

<目 的>

利用者が安心して介護保険を利用することができる。

<内 容>

- ①介護保険制度や利用料金などについて説明方法を工夫し誤解が生じないようにする。
→介護保険制度や利用料金などはパンフレットや書面を提示しわかりやすく説明することで誤解が生じないように努めた。
- ②ヒヤリハット時は事業所内で情報を共有し、事故に繋がらないようにする。
→ヒヤリハットと思う時は個人の振り返りの他、事業所で意見交換を行い再発防止に努めた。
- ③利用者、家族からの不満や改善要求等があった際には、速やかに事業所内で話し合いをする。
解決できない場合は第三者委員へ提案する。
→苦情 0 件。苦情になる前に利用者、家族とコミュニケーションを密に取るように努めた。
- ④ケース台帳の管理等、個人情報漏洩防止に努める。
→利用者の台帳は鍵付き書棚に収納、鍵は鍵箱に保管し個人情報漏洩防止に努めた。
- ⑤ヒヤリハットや事故のデーター分析を行い、再発防止に努める。
→ヒヤリハット 5 件 事故 0 件、ヒヤリハットが発生した時は事業所内で報告検討会を開催し、なぜそれが起こったのか、どうすれば防げるのかを話し合いを実施し再発防止に努めた。

(5) 新型コロナウイルス感染予防対策

<目 的>

感染予防対策マニュアルに沿った日々の対策を実施し感染症を予防する。

<内 容>

- ①職員は毎日検温し検温簿に記録する（出勤前・出勤時・休憩前）
 →出勤前・出勤時・休憩前に検温ならびに体調確認を実施し検温簿に記録した。37.0度以上の発熱や風邪等の症状（喉痛・倦怠感・咳・腹痛・嘔吐等）がある場合、出勤をしない等を徹底した。
- ②マスク着用・手洗い・三密の回避に努める。
 →マスクの着用・こまめな手洗い・不要不急の外出をしないように徹底し感染防止に努めた。
- ③出勤をしたら事業所内や車両内を消毒する。事業所内は常に換気をする。
 →事業所内・車両内の消毒や換気（空気清浄機活用）を行った。事業内は隣席・向かい合わせは机にアクリル版を設置し感染対策に努めた。
- ④利用者宅訪問は、家族や利用者の状況確認を随時行い実施する。
 →訪問前には電話で家族や利用者の体調確認後訪問をした。本人、家族より訪問自粛の依頼を受けた時は電話でモニタリングを実施し、書類等は郵送やポスト投函をする等に対応した。

（職員研修）

月	場 所・日	研 修 名	参加人数
4 月			0 人
5 月	緑樹苑会議室 オンライン (31 日)	令和 3 年度 オンライン主任介護支援 専門員更新研修	2 人
6 月	緑樹苑会議室 オンライン (9 日、10 日)	令和 3 年度 オンライン主任介護支援 専門員更新研修	2 人
	緑樹苑居宅介護支援事業所 オンライン (18 日)	令和 3 年度 沖縄県介護支援専門員協 会 定時社員研修会	4 人
	緑樹苑居宅介護支援事業所 オンライン (24 日)	令和 3 年度 沖縄県介護支援専門員協 会 沖縄支部総会	2 人
	緑樹苑居宅介護支援事業所 オンライン (25 日)	令和 3 年度 沖縄県介護支援専門員ス キルアップ研修・「ケアマネジメント関 連 基準改正・報酬改定後の疑問解消」	4 人
7 月	緑樹苑会議室 オンライン (9 日、10 日、15 日、 16 日、28 日、29 日、30 日)	令和 3 年度 オンライン主任介護支援 専門員更新研修	2 人
8 月			0 人
9 月	緑樹苑居宅介護支援事業所 オンラインにて (13 日)	令和 3 年度 沖縄県介護支援専門員協 会 沖縄支部研修	4 人
	緑樹苑居宅介護支援事業所	令和 3 年度 沖縄県介護支援専門員ス	1 人

	オンライン (30 日)	キルアップ研修・「BCP 作成に向けた基礎知識と準備のポイント」	
10 月			0 人
11 月	緑樹苑居宅介護支援事務所 オンライン (21 日)	令和 3 年度 沖縄県介護支援専門員スキルアップ研修・「令和 3 年度 介護保険改正 Q&A と介護保険最新情報」	2 人
12 月			0 人
1 月			0 人
2 月	みどり学童クラブ オンライン (10 日)	令和 3 年度 緑樹会 係長・主任研修	1 人
	みどり学童クラブ オンライン (14 日)	令和 3 年 緑樹会 中堅職員研修	1 人
3 月			0 人

(定期部署内勉強会)

月	日	勉強会名	参加人数
4 月	6 日、13 日、20 日、26 日	事例検討会・令和 3 年度介護報酬改定について	4 人
5 月	3 日、10 日、18 日、25 日、	事例検討会・令和 3 年度介護報酬改定について	4 人
6 月	1 日、7 日、15 日、22 日、 29 日	事例検討会・社会資源情報共有・介護保険最新情報の把握	4 人
7 月	6 日、13 日、20 日、27 日	事例検討会	4 人
8 月	2 日、10 日、16 日、25 日、 31 日	事例検討会・介護保険最新情報の把握	4 人
9 月	7 日、14 日、20 日、28 日	事例検討会	4 人
10 月	5 日、12 日、19 日、26 日	事例検討会	4 人
11 月	2 日、9 日、16 日、24 日、 30 日	事例検討会	4 人
12 月	7 日、15 日、17 日、28 日、	事例検討会	4 人
1 月	4 日、10 日、18 日、25 日	事例検討会	4 人
2 月	1 日、7 日、15 日、22 日	事例検討会	4 人
3 月	1 日、8 日、15 日、21 日、 28 日	事例検討会	4 人

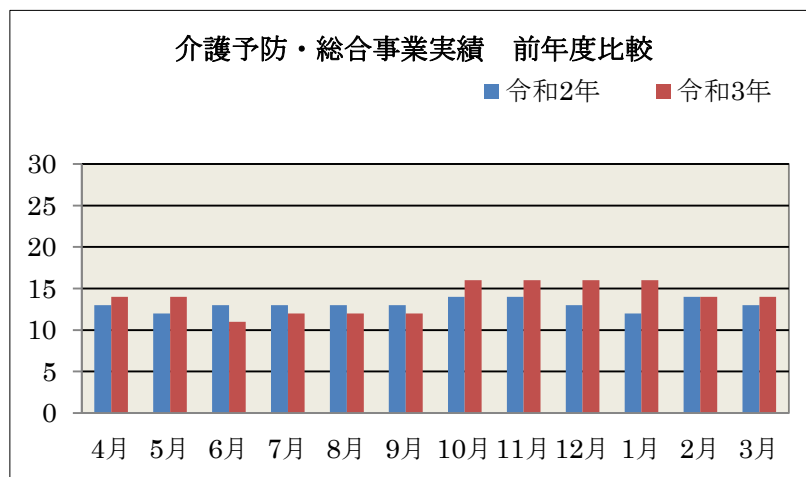
(共同事例検討会) 他法人居宅介護支援事業所との定期事例検討会

月	場 所・日	勉 強 会 名	参加人数
6 月	緑樹苑居宅介護支援事業所 オンライン (8 日)	事例検討会	4 人

利用状況について

(1) 年間実績 (介護予防・総合事業)

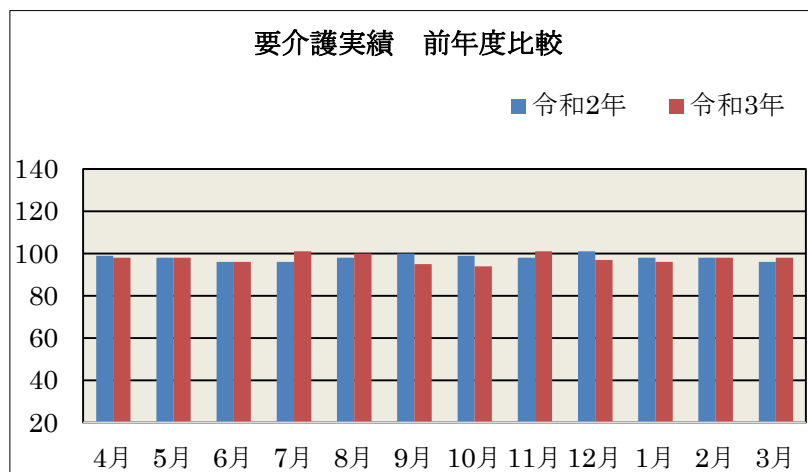
月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月
介護予防	10 人	11 人	9 人	10 人	10 人	10 人	14 人
総合事業	4 人	3 人	2 人	2 人	2 人	2 人	2 人
実績人数	14 人	14 人	11 人	12 人	12 人	12 人	16 人
月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計	
介護予防	14 人	14 人	14 人	13 人	13 人	142 人	
総合事業	2 人	2 人	2 人	1 人	1 人	25 人	
実績人数	16 人	16 人	16 人	14 人	14 人	167 人	



(2) 年間実績 (要介護度 1～5)

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月
利用者数	100 人	100 人	101 人	105 人	101 人	98 人	98 人
実績人数	98 人	98 人	96 人	101 人	100 人	95 人	94 人

月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
利用者数	104 人	101 人	99 人	101 人	101 人	1209 人
実績人数	101 人	97 人	96 人	98 人	98 人	1172 人



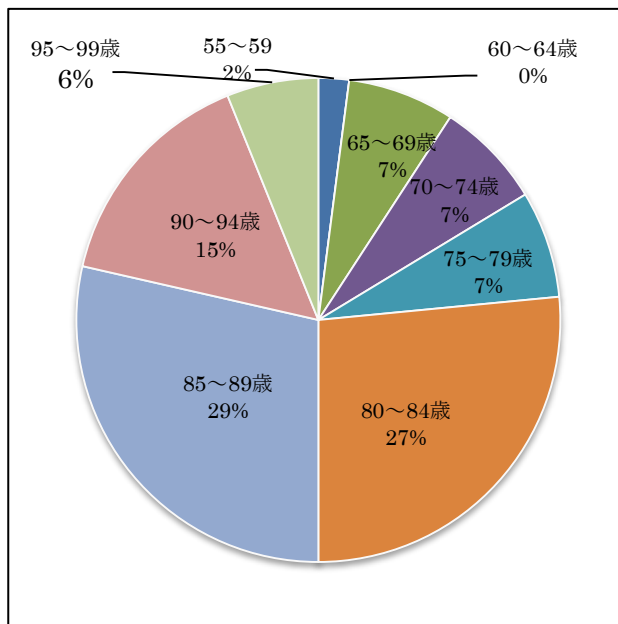
(要支援 1.2 事業対象者) 3 月現在

年齢	要支援 1		要支援 2		事業対象者		計		総合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	
65～69 歳	1 人	0 人	0 人	1 人	0 人	0 人	1 人	1 人	2 人
70～74 歳	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
75～79 歳	0 人	1 人	0 人	1 人	0 人	0 人	0 人	2 人	2 人
80～84 歳	0 人	0 人	1 人	0 人	0 人	0 人	1 人	0 人	1 人
85～89 歳	2 人	0 人	2 人	2 人	0 人	0 人	4 人	2 人	6 人
90～94 歳	0 人	0 人	1 人	2 人	0 人	0 人	1 人	2 人	3 人
95～99 歳	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
100 歳以上	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
計	3 人	1 人	4 人	6 人	0 人	0 人	7 人	7 人	14 人
平均年齢	80.3	79	86.7	83.1	0	0	84	82.5	89.6

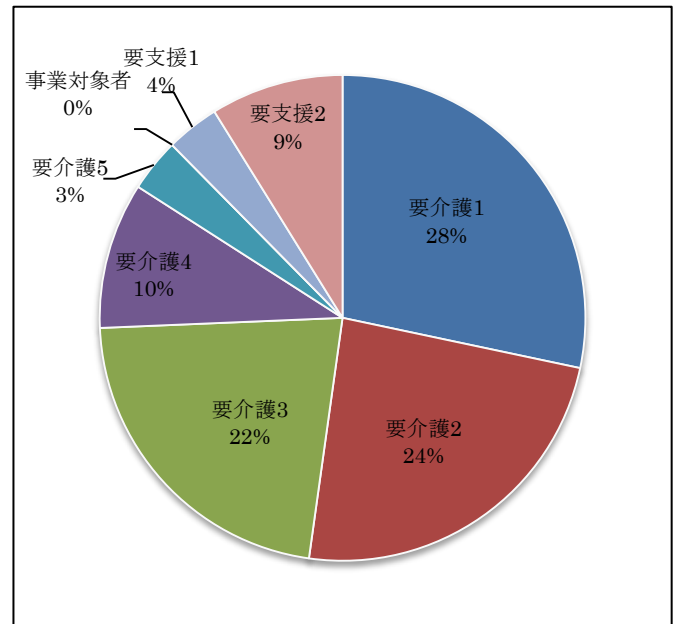
(3) 利用者の性別、要介護度別、年齢別の状況 (要介護 1～5) 3 月現在

年齢	要介護 1		要介護 2		要介護 3		要介護 4		要介護 5		計		総合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
55～59 歳	0 人	0 人	0 人	2 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	2 人	2 人
60～64 歳	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
65～69 歳	2 人	0 人	0 人	1 人	0 人	1 人	2 人	0 人	1 人	0 人	5 人	2 人	7 人
70～74 歳	0 人	1 人	2 人	0 人	1 人	1 人	1 人	0 人	0 人	1 人	4 人	3 人	7 人
75～79 歳	1 人	1 人	1 人	1 人	0 人	3 人	0 人	0 人	0 人	0 人	2 人	5 人	7 人
80～84 歳	4 人	5 人	2 人	5 人	1 人	5 人	0 人	3 人	0 人	1 人	7 人	19 人	26 人
85～89 歳	5 人	8 人	4 人	1 人	3 人	5 人	0 人	1 人	0 人	1 人	12 人	16 人	28 人
90～94 歳	1 人	3 人	0 人	6 人	0 人	3 人	0 人	2 人	0 人	0 人	1 人	14 人	15 人
95～99 歳	0 人	1 人	0 人	2 人	0 人	1 人	0 人	2 人	0 人	0 人	0 人	6 人	6 人
100 歳以上	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
計	13 人	19 人	9 人	18 人	5 人	19 人	3 人	8 人	1 人	3 人	31 人	67 人	98 人
平均年齢	70	85.7	82.3	83.2	83.2	82.7	68.6	89.1	69	81.6	75.4	84.4	81.5

年齢別状況



介護度別状況



沖縄市地域包括支援センター西部北 事業報告

1. 総括

西部北圏域（八重島・センター・胡屋・園田・中の町）の総人口は15,061人・高齢者数4,263人、高齢化率28.00%、後期高齢化率14.37%で高齢化率・後期高齢化率の割合が他圏域と比較して高い圏域となっている。

令和3年度は包括的支援事業（総合相談・地域包括支援ネットワーク構築・実態把握等）の周知として、休刊中のぬちぐすい新聞を9月号から（再）発行し地域住民や関係機関等へ配布と広報誌を置くための情報ボックスに定期的に補充した。法人HPや広報誌「竹とんぼ」の掲載等を活用し地域住民や企業、関係団体の定例会にて周知活動を行った。認知症総合支援事業は認知症に関する普及啓発活動として認知症パネル展を「世界アルツハイマー月間」に認知症への理解の呼びかけの活動として開催した。

在宅福祉サービス事業及び生活支援に係るサービス事業は、介護予防等把握業務の実態把握調査の繋ぎから一般介護予防事業、サロン、関係機関（保護課、社協、介護支援専門員、病院相談員、他支援機関）に情報共有、連携を行った。随時、在宅福祉サービス調整会議を開催し高齢者の地域における自立した日常生活支援（通院サービス事業、配食サービス事業、見守り、安否確認等）に移行支援に繋がった。

2. 運営状況

令和3年度におけるプラン件数は包括西部北の件数は1,637件、委託先の件数は436件となった。当初の目標1,680件数と見込んだ計画のプラン件数値は43件減少となった。対前年度比は包括西部北の件数は8件減少、委託先の件数は7件増となった。

※（9）指定介護予防支援事業 参照

3. 事業状況

①見守りサポーター養成講座の開催、自治会の福祉連絡会に参加し地域ニーズ、資源の把握と法人との関係性を継続できるように交流を図る。

⇒見守りサポーター養成講座は新型コロナウイルス感染予防のため延期している。各自治会の福祉連絡会は10月～12月、2月、3月の開催期に参加した。

②地域の住民、高齢者を対象に介護予防、認知症予防等に関する講座（出前講座）を開催し介護予防の推進啓発を図る。

⇒介護予防の推進啓発として「自宅できる体操のチラシ等」を配布した。認知症予防等に関する講座は新型コロナウイルス感染予防対策で延期している。

③社会福祉士の実習生を受け入れ法人事業所（特養ホーム、ケアハウス、通所介護、訪問介護、居宅介護事業所）と連携し学生の教育、育成に取り組む。

⇒沖縄国際大学、沖縄総合医療学院の「相談援助実習」は新型コロナウイルス感染予防対策

の観点から実習生の受け入れは中止となった。

4. 業務内容

(1) 総合相談支援業務

①地域におけるネットワークの構築

初期段階での相談対応を行い中核的機関としての役割として必要に応じて関係機関と連携し様々な相談内容について対応した。専門職によるチーム支援を必要とする高齢者を見出し保健・医療・福祉・介護サービスや医療サービス等を適切に利用できるような、介護事業者、医療機関、民生児童委員協議会、社会福祉協議会等との関係機関と連携し高齢者支援のためにネットワーク構築を図った。

②介護予防等把握

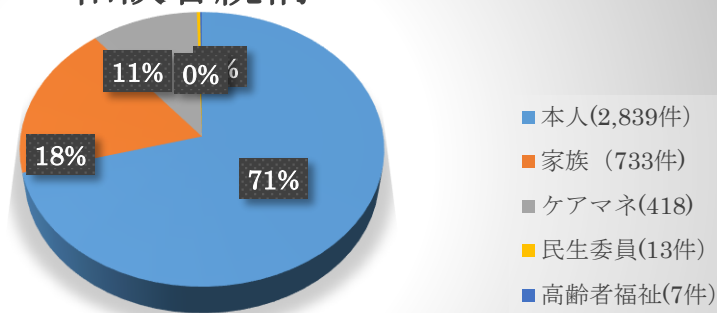
実態把握	延べ件数	実人数
令和2年度実績	4 3 2 人	2 8 5 人
令和3年度実績	5 3 1 人	3 8 4 人

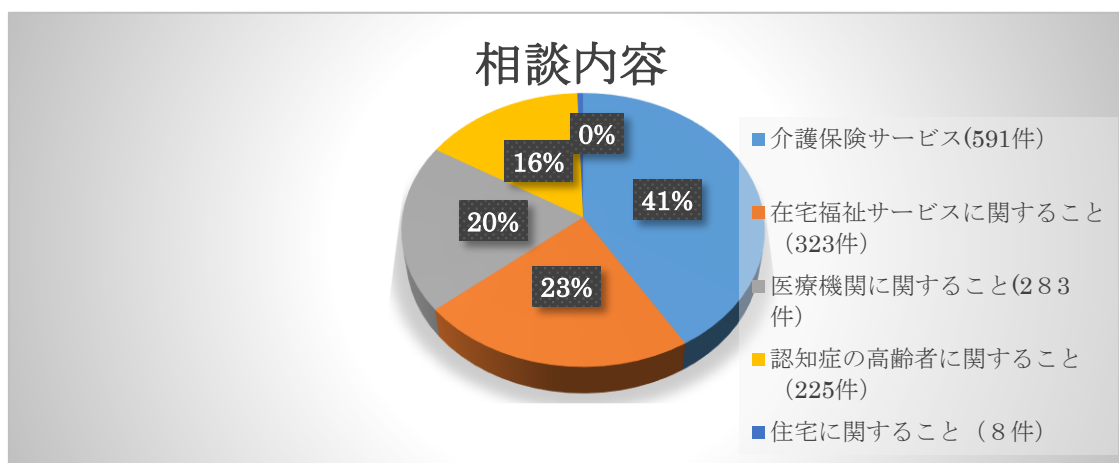
沖縄市介護保険課からのリストを基に高齢者独居世帯、同居世帯を訪問し基本チェックリストや介護予防等実態把握を行った。新型コロナの感染拡大に伴い訪問業務をポスティングと基本チェックリストと返信用封筒に同封し取り組んだ。185 人に郵送し 80 人に回答を受けた。実態把握の啓発活動の一環として生活支援コーディネーターと連携しながら、65 歳以上の高齢者を対象にコロナ関連と自宅出来る運動、熱中症予防の内容チラシを配布した。

③総合相談支援

総合相談件数	実人数	延べ件数
令和2年度実績	1, 5 0 7 人	4, 4 8 6 件
令和3年度実績	2, 4 0 3 人	5, 0 5 8 件

相談者続柄





相談実績は（相談者続柄別）：本人が最も多く、順に家族、介護支援専門員が多かった。
（相談内容別）：介護保険サービスに関する事、医療機関に関する事が多く、順に認知症の高齢者に関する事、在宅福祉サービスに関する事、住宅に関する事の相談が多かった。地域からの相談を円滑に受け入れ適切な制度、関係サービスにつなぐとともに継続的な相談支援を行った。

（２）権利擁護業務

① 成年後見制度の利用促進 ②高齢者虐待への対応 ③消費者被害の防止

高齢者虐待の防止及び対応

虐待認定	虐待認定に至らなかった	合計相談件数
1	0	7

老人福祉施設等への措置の支援

老人福祉施設等への措置の支援	支援件数
0	0

相談・通報者の内訳：本人 3 件、家族 1 件、介護支援専門員 1 件。

被虐待者との続柄：被虐待者との関係では、息子が 1 件となっている。

虐待の対応策：関係者からの情報収集し事実確認事例が 1 件となっている。

虐待の対応においては早期発見・早期対応とし「高齢者虐待対応のマニュアル」に基づき速やかに事実確認・状況を把握し関係機関と連携を図り対応した。虐待認定に至らないケースについては、担当ケアマネを通じ状況確認しながら、介護保険サービスの導入や継続的な見守り等により虐待防止に努めた。

権利擁護業務の内、成年後見制度相談が 10 件となっている。在宅生活が困難になり施設入所調整、病院調整、金銭管理支援等を行った。

消費者被害の防止・消費者トラブルの情報発信は沖縄県消費生活センターのパンフレットを西部北事務所に回覧・掲示・案内を行った。

（３）包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

基幹型包括支援センター、各地域型包括支援センターと協力し、介護支援専門員の資質向上を図るための研修会や勉強会を開催した。介護支援専門員からの相談（来所・電話）に対しアドバイスや地域資源の紹介・インフォーマルサービスを活用できるように第２層生活支援コーディネーターと連携した。介護支援専門員の対応する困難ケースには必要時に同行訪問を行い、包括的・継続的ケアマネジメントを介護支援専門員が実践できるようにサポートを行った。

（４）在宅医療・介護連携推進事業に関する協力業務

中部地区医師会（在宅ゆい丸センター）主催による「在宅医療・介護連携推進会議」への参加や多職種研修会に参加した。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため ZOOM によりオンラインでの会議参加となった。各自治会にて地域住民向けの啓発や情報の提供を行った。

（５）生活支援体制整備事業に関する協力業務

自治会の福祉連絡会、老人クラブ定例会、高齢者サロン、地域の集いの場にて地域住民と情報交換を行い必要時「第２層協議体」を開催し、課題解決に向けて住民や関係者と協議を行った。「がんじゅうポイント活動」はゴミ出し活動（３件）依頼を受け１件はマッチング完了できた。

（６）地域ケア会議推進事業

総合相談、介護予防ケアマネジメント、介護支援専門員からの相談、認知症高齢者に関する相談等に対し個別事例の解決を目的とした個別地域ケア会議や自立支援方法や課題の解決策を検討する自立支援地域ケア会議を開催した。介護支援専門員のニーズ調査から地域課題解決するために必要な地域関係者と住民の連携を図り、社会資源や地域づくりの推進のためのアンケート（圏域別地域ケア会議）を実施した。

地域ケア会議の回数

個別地域ケア会議	圏域別地域ケア会議
3	1

（７）介護予防ケアマネジメント

日常生活総合事業対象者及び要支援者に対して、介護予防ケアマネジメントを行い高齢者が有する能力の応じ自立した生活が営むことができるように取り組んだ。地域資源等インフォーマルサービスも含めた必要なサービスをマネジメントしている。新規の対象者には短期集中リハビリ教室等へ繋げられるように支援を行った。

総合事業サービス調整会議から２１件を自立支援に資したサービス調整を行っている。

介護予防支援及び介護予防ケアマネジメントの業務一部委託については新規の利用者を優先的に調整した。ケアプラン確認の中でサービスの必要性やインフォーマルサービス等の検討等を含め確認を行った。介護予防ケアマネジメントが自立支援に資するよう自立支

援地域ケア会議を開催した。

自立支援地域ケア会議の回数

西部北主催	基幹型主催
3	2

(8) 一般介護予防事業

一般高齢者に対する支援は、介護予防として住み慣れた地域で元気でいきいきと暮らせるために沖縄市の介護予防教室（高齢者パワーアップ教室、高齢者元気教室）や自治会のいきいき百歳体操に参加を推奨した。

(9) 指定介護予防支援事業

プラン件数	ケース件数	1人あたり平均
令和2年度実績	1,645人 (予防1,380+総合262)	39人 (予防33+総合6)
令和3年度実績	1,637人 (予防1,406+総合228)	39人 (予防33+総合6)

地域包括西部北（プラン件数）

	初回		継続		合計	
	R2	R3	R2	R3	R2	R3
事業対象者	11	5	251	223	262	239
要支援1	20	12	531	547	551	559
要支援2	21	18	808	829	829	847
計	52	35	1,593	1,602	1,645	1,637

委託先（プラン件数）

	初回		継続		合計	
	R2	R3	R2	R3	R2	R3
事業対象者	0	1	24	10	24	11
要支援1	3	4	142	140	145	144
要支援2	10	7	250	273	260	280
計	13	12	416	424	429	436

令和3年度は新規契約者47人。ケアマネジメントC(短期集中リハビリ教室)は21人。要介護が見込まれるケースや区分変更のケースについては委託事業所での調整を行った。委託先プラン件数が減る傾向が継続見られる。西部北プラン件数・実績（前年度比較で5

7件減少)であるが、実績に移行できない内容として、新型コロナ感染予防で利用サービスを自粛する・体調不良・入院中・区分変更・終了の内訳となる。

(10) 認知症地域支援・ケア向上事業

認知症の相談支援や支援体制の構築として、対象者の自宅訪問や病院受診の対応を実施した。認知症に関する普及啓発活動として認知症パネル展(3回)を開催した。認知症の人を支援する関係者間の連携として感染防対策を取りながら認知症サポーター養成講座(2回)を開催した。沖縄市(実施主体)から委託されている病院の担当職員(精神保健福祉士、看護師等)と連携し、認知症初期集中チーム員として対象宅へ訪問(43件)し専門外来受診または介護保険サービスに繋げる等の支援を行った。

自宅訪問	54件	病院受診	18件
認知症パネル展			
沖縄市立図書館	9月15日～10月14日	中の町自治会	10月20日～29日
FM コザ	2月14日～3月14日		
認知症サポーター養成講座			
コザ信用金庫(本店)	7月14日	中の町小学校	2月24日

その他・高齢者在宅福祉サービス

高齢者通院支援サービス事業、緊急通報システム設置事業、高齢者見守り体制整備事業(緊急医療情報キット配布)、食の自立支援事業(配食サービス)に繋げた。

高齢者通院支援サービス事業	11件
緊急通報システム設置事業	0件
高齢者見守り体制整備事業(緊急医療情報キット配布)	14件
食の自立支援事業(配食サービス)	15件
ゆんたくコール	0件

みどり学童クラブ 事業報告

1. 総括

令和3年5月～9月は新型コロナウイルス緊急事態制限に伴い、小学校が休校になったことで学童クラブを午前から開所し受入れをした半面、学童クラブでの感染を懸念し長期間利用を自粛する児童もいた（6月・7月は1名、8月・9月は4名、1～3月1名）。夏休みは緊急事態制限中で園外活動は実施できなかったが裏庭で水遊びやボール遊び等の時間を多く持ったことや、児童にアンケートを取り人気のあるゲームや遊具を購入し屋内遊びを充実した。児童の精神面を考慮しながら限られた内容の中で学童クラブでの活動を楽しみに通うように努めた。9月には児童1名が陽性になり、沖縄市子ども家庭課と相談した結果3日間学童クラブを閉鎖した。1月には1年生と2年生のクラスで学級閉鎖があり、6名の児童が学童クラブの利用を自粛することになったが自粛中に、2名が陽性となるが、その後の感染拡大はなかった。職員の感染者はゼロ人であった。

2. 運営状況

4月は41名で事業開始。令和4年3月時点の児童数は37名であった。基本補助金の増額や、新1年生は15名を維持し低学年（1年生、2年生）が50%を占めた事で前年度より保護者負担分の収入が増となった（沖縄市より：緊急事態や蔓延防止中利用自粛した児童も保育料を徴収、休んだ児童に対して沖縄市子ども家庭課より日割計算で保護者へ保育料の返還をする、6月・7月・8月・9月・1月・2月分）退会は8名（部活動入部1名・家庭保育5名・児童デイサービス移行1名・死亡1名）家庭保育はコロナの影響で保護者の離職や兄弟・祖父母に保育依頼等年度途中で4名が入会、夏休み期間のみ利用が1名あった。

3. 事業状況

（1）サービスの質の向上

<目的>

児童が「学童は楽しい場所」だと感じ、すすんで学童クラブに通える環境作りに取り組む。

<内容>

①施設環境について

- ・児童の写真や作品を展示するなど、保護者に活動が伝わるような環境作りをする。
→階段壁の装飾コーナーに、季節や行事ごとに児童と指導員が折り紙で装飾をした、また、児童の活動写真を掲示し保護者に活動が伝わる様に務めた。
- ・端末機を活用した学習や遊びを展開し、児童が興味を持てる環境作りをする。
→端末機の動画を活用し、運動会や発表会等で発表するダンスの練習やアプリを使って学習ゲームを楽しんでいる。希望する児童が全員利用できるようにすることや活動が

偏ることがないように、ルール作りを行った。

②おやつについて

- ・補助食として栄養価や満足度の高いおやつを提供する。

→給食センターに手作りおやつを注文し提供することはできたが、メニューによっては残食が多いため、摂食状況や児童の好きなおやつのリサーチを行い栄養士と情報共有や調整を行った。好き嫌いが多い児童が多く課題は残っている。

- ・児童がメニューを考案し、楽しく参加できる手作りおやつ会を定期的を開催する。

→10月と3月に実施した。5年生女子が中心になりメニューの決定やおやつ作り、片付け等積極的に参加できた。

- ・児童が植え付けや収穫をした野菜をおやつに提供し食育への関心を高める。

→とうもろこし（5月）とじゃがいも（3月）の収穫を行った。とうもろこしはおやつに提供、じゃがいもは手作りおやつ会やカレー作りに使用した。収穫をした野菜がおやつや食事になる工程に児童が関わることで関心を高めることができた。

③交流について

- ・同世代や異年齢との交流や遊びを通し、自主性・協調性及び創造性を培う。

→1年生～6年生が日々の遊びや交流、学習支援を通し自主性・協調性や創造性が培えた。

- ・高齢者と児童がふれあう交流の場を多く提案し、「やさしさ・人の気持ちを汲み取る力」を培う（コロナ禍では、工夫をしながら交流の場を持つ）

→コロナ感染状況を確認しながら交流できる方法を検討しデイサービス利用者と交流を実施した。「新一年生お披露目会」や「ハロウィン仮装お披露目会」をガラス越しに実施、敬老会では児童からデイサービス利用者へビデオレターの送信や、リモート交流を行った。

④家庭や学校・関係機関との連携について

- ・必要時は小学校との報告会を開催し、信頼関係の構築や、情報共有をすることで児童を多角的な視点から支援を行う。

→コロナの影響により学校訪問は実施出来なかったが、必要時は教頭先生や担任の先生と送迎時や電話で気になる児童の様子等を報告し情報共有や支援方法を検討した。

- ・学童クラブ便り（1回/月）を発行する。ブログを更新し学童の様子を発信する。

→学童クラブ便りは月1回定期発行し、保護者や子ども家庭課に届けた。ブログを更新し学童クラブの活動状況を発信したが、更新回数が少なく次年度は回数を増やし積極的に発信していく。

（2）人員の確保及び人材育成

<目的>

指導員として専門的な知識と意識を持ち、専門性のある支援に努める。

<内容>

①指導員のスキルの向上について

- ・ 沖縄市や県が主催する研修に積極的に参加し、専門職としてのスキルアップを図る。
受講後は他の指導員と研修の学びや知識を共有する。

→ 沖縄市主催キャリアアップ研修（2名）と障がい児支援研修（2名）に各担当を派遣し専門職の学びや知識を得た、研修後は部内会議で他職員と情報共有を行った。

- ・ 部署内会議・申し送り等をより充実させ、情報共有やチームワークの強化を行い、児童一人ひとりの指導がより細やかに行えるように努める。

→ 児童に対して毎日の申し送りや必要時はその都度情報を伝達することで職員が同じ情報を基に細やかな対応が行えた。

②指導員の育成について

- ・ 経験値に合った研修計画を策定しステップアップを図り、やりがいを高める。

→ 経験値により研修計画を策定した、市の研修案内に沿って支援員4名が研修に参加をした。補助員に関しては部署内で勉強会を持ち児童の理解・指導員の役割等やケース検討を行い、支援員と補助員が同じ意識と知識を持ち、やりがいやステップアップを図る事に努めた。

補助員の研修案内がないことが課題、沖縄市に補助員対象の研修を依頼していく。

(3) 業務改善

<目的>

- ・ 担当職員の休暇時もスムーズに業務が行える体制を整える。

<内容>

①業務分担をする

- ・ 分担表を作成し皆が確認しやすい場所に掲示をする。

→ 令和3年6月～令和4年4月迄、常勤支援員の産休・育児休暇に伴い担当業務を分担した（障がい児担当・おやつ購入・ブログ更新等を他支援員：常勤・パート）分担表を作成したことで確認がしやすくスムーズに引き継ぐことができた。

(4) リスクマネジメント

<目的>

- ・ 多様な年齢や活動の多い児童が安全に安心した居場所となるように取り組む。

<内容>

①送迎時の安全について

- ・ 日頃から車両の点検やマニュアルを確認し、安全な送迎に努める。

→ 車両マニュアルの点検や車両チェック表の項目について毎日チェックし、安全運転に努めた。

②保育環境について

- ・屋内外の環境を整え事故やけがが無く安全に遊びを行う。
- 裏庭や園外活動での事故や怪我はなかったが、9月に1年生児童がホール内を走り柱に額をぶつける事故が発生した。事故後は柱にクッションカバーを巻く対策を取った。
- ・ヒヤリハットが出た時は職員間で早急に協議し、事故に繋がらないようにする。
- ヒヤリハットが出た時点でミーティングを開催し、指導員全員で原因や防止対策等の情報共有を行った。

③防犯・防災について

- ・法人内の防災訓練への参加や当該クラブの防災・防犯マニュアルに沿った訓練を実施する。
- 法人内の防災訓練は時間調整（児童送迎時間）が出来ずに不参加、学童クラブで防災訓練と防犯（不審者）訓練を各1回行った。
- ・警察や学校と連携し不審者等の情報交換や実践的な対処法について確認する。
- 小学校からのメーリングや子ども家庭課からのFAXで不審者情報を確認し、職員間で情報共有を行った。

(5) 新型コロナウイルス感染症予防について

- ・マニュアルを定期的に確認し、必要時は見直しを行う。
- 濃厚接触者の定義等、学校PCRチームからの変更等については職員間で確認しマニュアルの再確認を行った。
- ・職員は常時マスク着用、三密の回避等意識を持った行動を行い感染予防に努める。
- 職員は常にマスクを着用したことや、私生活でも不要不急以外の外出は自粛し感染予防に努めた。
- ・児童へのマスク着用の促しや手洗い・消毒の指導、学習や遊びの場所で密にならないように周知する。
- 児童にマスク着用の促しや、手洗い・消毒の指導を行うと共に学習や遊びの場所で密にならないように常に声掛けを行った。
- ・クラブ室内・送迎車の換気・消毒を毎日行い・感染源になりえる原因を取り除く。
- 室内や送迎車両は常に窓を開け換気を行った、昼食やおやつ学習時はアクリル板を設置し使用後は消毒を行った。
- ・感染状況について小学校や子ども家庭課と情報共有を図り感染拡大に努める。
- 学校で陽性者が出た時や学級閉鎖等についての連絡を受けることで、学童クラブでも早急な対応ができた。土・日・祝祭日の発症についても子ども家庭課と連絡が取れる体制があり、スムーズな対応ができた。

4. 行事・活動等

(行事・イベント内容及び参加人数)

4 月	諸見小学校訪問 新年度校長・教頭顔合わせ (5 日)	1 名
	室川小学校訪問 新年度校長・教頭顔合わせ (6 日)	1 名
	園外活動 県総合運動公園 (10 日)	13 名
	園外活動 中城公縁 (17 日)	15 名
30 日	園外活動 謝苺公縁 (6 日)	6 名
5 月	園外活動 ミニミニ動物園 (1 日)	6 名
	園外活動 若夏公園 (8 日)	13 名
	園内畑 とうもろこし収穫 (12 日)	15 名
	園外活動 中城公縁 (15 日)	14 名
	デイサービス交流 1 年生御披露目会 (25 日)	14 名
9 月	デイサービス交流 敬老会 (リモート) (24 日)	27 名
10 月	手作りおやつ会 (25 日)	23 名
	防災訓練 (25 日)	23 名
	デイサービス交流 ハロウィン (30 日)	27 名
11 月	食育事業 ジャガイモ植え付け (25 日)	9 名
	園外活動 マンタ公園 (20 日)	10 名
	園外活動 中城公園 (27 日)	14 名
12 月	園外活動 マンタ公縁 (4 日)	8 名
	園外活動 中城公縁 (11 日)	9 名
	園外活動 県総合運動公園 (18 日)	9 名
	園外活動 若夏公縁 (25 日)	8 名
	防犯訓練 (不審者) ビンゴ大会 (27 日)	26 名
	デイサービス交流会 18 番大会 (28 日)	11 名
3 月	園外活動 県総公園 (5 日)	9 名
	園外活動 若夏公園 (12 日)	9 名
	園外活動 アラハ公園 (19 日)	8 名
	園内畑 じゃがいも収穫 (25 日)	12 名
	食育事業 カレー作り お別れ会 (29 日)	34 名
	手作りおやつ会 (25 日)	11 名

(職員研修、勉強会等)

月	場 所	研修・勉強会名	参加人数
11月2日	学童クラブ（リモート）	キャリアアップ研修「LGBTについて」	2名
12月16日	学童クラブ（リモート）	障がい児研修 「発達支援について」	2名

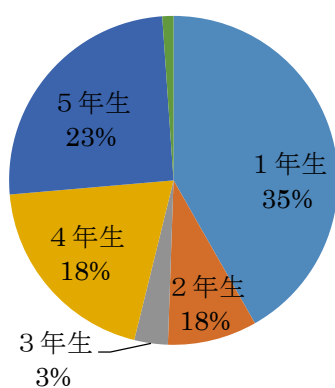
5. 利用状況について

(1) 年間実績（利用日数）

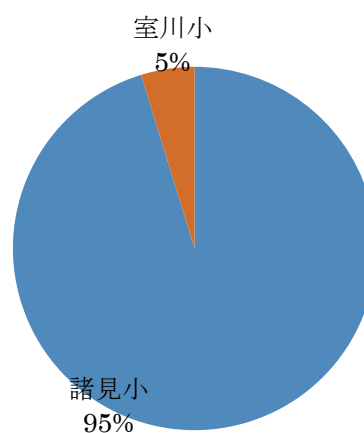
開所 日数	4月 25日	5月 23日	6月 25日	7月 25日	8月 25日	9月 24日	10月 26日	11月 24日	12月 26日	1月 23日	2月 22日	3月 26日
小1	14	15	15	15	15	15	14	14	14	14	14	14
小2	5	5	6	8	8	8	8	8	8	8	7	7
小3	3	2	2	2	1	1	1	0	0	0	0	0
小4	8	8	8	8	9	8	7	7	7	7	7	6
小5	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
小6	12	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	41	40	41	43	43	42	40	39	39	39	38	37

(2) 児童の学年別、学校別の状況

学年別



学校別状況



(3) 入退居状況

	入会	退 会				
	小学生	クラブ活動	家庭保育	習い事	その他	計
4 月	41	0	2	0	0	2
5 月	1	0	0	0	0	0
6 月	1	0	0	0	0	0
7 月	2	0	0	0	1	1
8 月	0	0	0	0	0	0
9 月	0	1	0	0	1	2
10 月	0	0	1	0	0	1
11 月	0	0	0	0	0	0
12 月	0	0	0	0	0	0
1 月	0	0	1	0	0	1
2 月	0	0	1	0	0	1
3 月	0	0	0	0	0	0
合計	45	1	5	0	2	8

ケアハウスはいびすかす

ケアハウスはいびすかす 事業報告

1. 総括

令和 3 年度は前年度に引き続き新型コロナ対策を重点に置いた運営となった。職員の検温、手指やテーブル、手すりなどの消毒を徹底し、また毎朝の朝礼において注意喚起を継続し、施設へのコロナ流入防止に努めた。結果として利用者の感染は無く、職員は 1 名の陽性者（令和 3 年 9 月家庭内感染）が出たが、それも施設内での感染には至らなかった。

新型コロナ対策の一環として家族と利用者の面会制限を設けた。

終末期ケアに関して地域の訪問診療とこれまで以上の連携を取り「看取り」に取り組んだ。令和 3 年度は 3 名の施設看取りを行った。

2. 運営状況

年間稼働目標は 97.0%。最終年間平均稼働率は 97.0%。稼働目標は達成した。

新型コロナ対策の一環として家族と利用者の面会制限を設け、1 階ホールにおいてガラス越し面会（トランシーバー利用）継続。

3. 実施内容

（1）生活の質の向上

<目 的>

利用者に安心安全な生活を基本として、日々を楽しく過ごしてもらう。

<内 容>

【①利用者個人の状態を考慮したアクティビティを提供する】

席の配置等を常に検討し、食事だけでなくその他の時間もホールに集い職員や他の利用者と談笑する雰囲気づくりに努めた。

【②フロア単位でお茶会やカラオケ大会などを実施する】

カラオケクラブや書道クラブもフロアごとに実施し、日々のアクティビティは少人数で行うことで実施回数を増やした。また前年度まで全館で行っていた誕生会をフロア単位での開催とし、それぞれに趣向を凝らした

【③新型コロナの影響で外出制限が続くことから、屋上を整備し屋外でリフレッシュすることを日々のプログラムとして行う】

屋上は実施できなかったが外出制限によるストレス緩和として少人数（3～5名）でミニドライブを実施した。

（2）介護サービスの質の向上

<目 的>

法人キャッチコピーである【ニコニコサービス】、法人理念の一つである【幸せ家族

のお手伝い】を实践したサービスを提供する。

<内 容>

- ①「笑顔」「挨拶」等、接遇サービスの基本的動作を再度意識し実践する。
→4月の全体会議で「笑顔」「挨拶」「元気」の徹底を周知し朝のミーティングでも意識付けを継続した。
- ②家族とのコミュニケーションを密にとり「利用者本人にとって、家族にとって」最良なサービスの提供を常に意識する。
→家族との洗濯物等のやり取りはフロアの介護職が行うことを徹底しコミュニケーションを密にとり、家族との情報の共有に努めた。健康状態を伝える際も食事の摂取量や睡眠の状態など具体的な報告を行った。
- ③終末期の選択肢としての「施設における看取り」に対する知識と理解を深め、最善のサービス提供が出来る体制を整える。
→看取りに関する家族の意思の確認には細心の心配りを行い、看取り開始のカンファレンスには必ず介護職員を同席させ「家族の想い」に寄り添う取り組みをした。
- ④入居者の日々の基本的な健康管理はもとより口腔ケアや感染症の専門的（主治医・看護師・歯科医・歯科衛生士）意見を取り入れながら誤嚥性肺炎や感染症の予防を強化する。
→口腔ケアや感染症の予防に関しては歯科衛生士や協力病院の医師の指示助言のもとサービスの向上に努めた結果、令和3年度は肺炎や流行性の感染症の罹患及び入院は0人であった。

（3）彩のある「食生活」の提供

<目 的>

四季折々の食を提供し、利用者に楽しんでもらい活力につなげる。

<内 容>

- ①はいびすかす専属の栄養士配置し利用者の嗜好調査や摂取状況を確認し日々の食事に反映させる。
→専属の栄養士配置し利用者の嗜好調査や摂取状況を確認し献立を作成した。また主任会議や部内会議でより細かい食事摂取の状況を報告しあい、日々の食事に反映させた。
- ②イベント時に提供する食事や日々のおやつにも楽しみが持てる献立を企画する。
→行事食は厨房だけでなく介護職も献立作成に参加し、職員一丸となって行事に取り組んだ。

- ・母の日—お花御膳
- ・父の日—マグロ解体ショー
- ・敬老の日—特別折弁当
- ・運動会—マクドナルド
- ・クリスマス忘年会—ビュッフェスタイル昼食会

（４）人材育成

＜目 的＞

利用者の安心・安全な生活を継続し安定したサービス提供を行うため実施する。

＜内 容＞

- ①新人職員については、専任の先輩や指導者を個別に付け、介護技術や知識の習得を積極的に進める。また中堅以上の職員は外部の研修も多く参加し現場マネジメントの知識や技術を会得させる。
→新人職員へのOJTは人員配置の都合から十分に行うことが出来なかった。また中堅以上の職員への外部研修は新型コロナの影響により実施できなかった。
- ②職員自主研修費用助成—職員の自主的な研修又は職務に関連する資格等の取得に対し助成する。またスクーリング等に参加できるよう勤務調整を最優先に行えるようにする。
→介護福祉士資格試験は受験者がいなかった為、助成は行わなかった。

（５）施設整備

＜保守・修理＞

- ①居室水回りは現在のセンサー式から手動式に暫時入れ替えを行う。（前年より継続）
→居室手洗い（８台）及び洗浄トイレ（３台）の交換を行った。
- ②居室内及びフロアのエアコンの全面整備と清掃をおこなう。また、フロアのワックス清掃を実施する。（前年度未実施の為）
→居室及び休憩室等、フロア以外のエアコンの全面清掃を実施した。フロアのワックス清掃を実施できず。

＜購入・新規設置＞

- ①厨房機器の故障が目立つため、主要機器の点検を行い、必要であれば買い替えをおこなう。
→ハサップの施行に伴う製氷機、次亜塩素酸水製水器等を導入した。

（６）防災対策

<目 的>

災害緊急時に利用者の安全を迅速に確保するべく、日頃よりの準備、訓練に万全を期す。

<内 容>

①「非常災害時対策計画書」を基に災害発生を想定した訓練を年６回、消防立ち合いの総合訓練を年２回実施する。

→「非常災害時対策計画書」を基に災害発生を想定した訓練を年６回、消防立ち合いの総合訓練を年２回実施した

②消火器・消火栓、非常灯等の災害設備の場所確認、動作確認を月１回行う。

→消火器・消火栓、非常灯等の災害設備の場所確認、動作確認を月１回行った。シフト調整を行い一年を通して全職員が参加した。

③非常連絡網を整備し、職員の異動や変更があった場合、速やかに更新し災害発生時に遅延のない連絡を行えるようにする。

→職員の異動や変更があった際は速やかに非常連絡網を整備し遅延のない連絡を行えるようにした。

（７）新型コロナウイルス対策

<目 的>

全国的に蔓延する新型コロナウイルスの施設内流入と感染者の発生を防ぐ。

<内 容>

①職員の健康管理を行う。出勤時の指手消毒及び検温の徹底。体調不良を認める場合、早退及び在宅での療養。

→出勤時の検温と常時の指手消毒を徹底して行った。毎朝の朝礼で注意喚起し対策意識を継続させた。

②施設内の衛生強化。手すり、テーブル等日常的に触れる箇所の随時の消毒。居室・ホールはこまめに換気を行う。

→手すり、テーブル等日常的に触れる箇所の随時の消毒や、居室・ホールはこまめに換気を行った。また常時のマスク・ガウン着用を徹底し感染予防に努めた。抗原検査キットを常備し迅速に検査できるようにした。

③協力医療機関医師や行政の助言を受けながら家族に事情を理解してもらい面会制限を継続し、地域の流行状況に応じた面会制限の解除（一部解除）を随時検討する。

→一階事務所前ホールにおいてガラス越しの面会（トランシーバ使用）を継続した。た

だし利用者が看取りに入った場合は人数制限（2名）および時間制限（10分以内）を設けて居室内面会を実施した。

④行政の指示に従い、利用者職員ともPCR検査およびワクチン接種を行う。

→令和3年6月に2回目、令和4年2月に3回目のワクチン接種（全利用者・全職員）

年間報告

	行事	
5月	書道クラブ 5月4日（火）	8名
	母の日会 5月13日（木）	49名
6月	ミニシアター 6月16日（水）	12名
	父の日会 6月18日（金）	49名
	誕生会 6月25日（金）	12名
7月	おやつ会 7月6日（火）	10名
	七夕会 7月7日（水）	15名
	書道クラブ 7月13日（火）	3名
	お菓子会 7月17日（土）	10名
	誕生会 7月23日（水）	13名
	カラオケクラブ 7月29日（木）	7名
8月	ミニシアター 8月4日（水）	6名
	おやつ会 8月5日（木）・8月12日（木）8月19日（木）・8月30日（月）	7・10・13・9名
	書道クラブ 8月9日（月）・8月24日（火）	7名・5名
	カレー作り 8月27日（金）	5名
9月	おやつ会 9月9日（木）	12名
	月見会 9月21日（火）	6名
	運動会飾り作り 9月21日（火）	3名

	ミニシアター 9月23日(木)	10名
	誕生会 9月24日(金)	14名
	書道クラブ 9月27日(月)	4名
10月	ミニシアター 10月5日(火)	9名
	運動会 10月14日(木)	49名
	書道クラブ 10月19日(金)	7名
	ミニドライブ 10月22日(金)	9名
11月	おやつ会 11月4日(木)	13名
	ふるさと訪問 11月8日(月)	1名
	ミニシアター 11月16日(火)	14名
	ミニドライブ 11月17日(水)・11月30日(火)	11名・11名
	カレー作り 11月26日(金)	6名
	誕生会 11月26日(金)	13名
12月	書道クラブ 12月6日(月)	7名
2月	ミニシアター 2月11日(金)	16名

職員会議

	会議・委員会・勉強会	
4月	はいびすかす全体会議 4月15日(木)	26名
	主任会議 4月7日(水)	6名
	フロア会議 4月14日(木)	6名
	感染症委員会 4月20日(水)	8名
	身体拘束適正化検討委員会 4月13日(火)	4名
	身体拘束適正化検討委員会 4月30日(金)	10名
	身体拘束について勉強会 4月2日(金)	3名

	介助時の注意点 勉強会 4月2日(金)	3名
	身体拘束について勉強会 4月30日(金)	10名
	防災委員会 4月30日(金)	5名
5月	褥瘡防止委員会 5月20日(木)	13名
	フロア会議 5月31日(月)	5名
	主任会議 5月7日(金)	5名
	リスクマネジメント委員会 5月11日(火)	5名
	事故防止委員会 5月11日(火)	5名
	感染症委員会 5月27日(木)	6名
	身体拘束廃止に向けた研修会 5月8日(土)～11月	44名
	研修委員会 5月13日(木)	5名
	防災委員会 5月23日(日)	4名
	給食委員会 5月20日(木)	13名
	新人職員研修会 介護職員としての心構え 5月18日(火)	4名
6月	フロア会議 6月30日(木)	5名
	主任会議 6月4日(金)	7名
	事故防止委員会 6月2日(水)	5名
	感染症委員会 6月22日(火)	4名
	身体拘束適正化検討委員会 6月11日(金)	7名
	防災委員会 6月29日(火)	5名
	適切なオムツの使い方勉強会 6月2日(水)	9名
	適切なオムツの使い方勉強会 6月3日(木)	7名
7月	主任会議 7月2日(金)	4名
	部内会議 7月9日(金)	12名
	フロア会議 7月19日(月)	6名
	事故防止委員会 7月2日(金)	6名
	身体拘束適正化検討委員会 7月22日(木)	2名
	給食委員会 7月9日(金)	12名

	新型コロナウイルスについて勉強会（8日）	2名
	新人職員研修会 介護職員としての必要な技術（14日）	3名
8月	部内会議 8月17日（火）	12名
	主任会議 8月5日（木）	5名
	フロア会議 8月24日（火）	8名
	フロア会議 8月31日（火）	5名
	事故防止委員会 8月5日（木）	5名
	身体拘束適正化検討委員会 8月18日（水）	7名
	新人職員研修会 介護職員としての必要な技術（22日）	2名
9月	フロア会議 9月30日（木）	4名
	主任会議 9月2日（木）	4名
	事故防止委員会 9月2日（木）	6名
	身体拘束適正化検討委員会 9月21日（火）	4名
	介助時の注意点 勉強会 9月28日（火）	1名
	身体拘束について 勉強会 9月28日（火）	1名
	新人職員研修会 介護職員としての必要な知識（30日）	2名
	沖縄県介護支援専門員 研修会（27日～）	1名
	社会福祉施設給食担当職員研修（7日～）	2名
10月	フロア会議 10月23日（金）	6名
	事故防止委員会 10月5日（火）	6名
	身体拘束適正化検討委員会 10月29日（金）	5名
11月	主任会議 11月2日（火）	4名
	事故防止委員会 11月3日（水）	7名
	身体拘束適正化検討委員会 11月30日（火）	6名
	給食委員会 11月2日（火）	4名
12月	主任会議 12月3日（金）	5名
	事故防止委員会 12月3日（金）	6名
	福祉職員キャリアパス対応生涯研修（22・23日）	2名

1 月	事故防止委員会 1 月 5 日 (水)	8 名
2 月	認知症ケアの専門性を理解する勉強会 (8 日)	1 名
	認知症ケアの専門性を理解する勉強会 (12 日)	1 名
	リスクマネジメント実践講座 (2 日)	1 名
	認知症ケアの専門性を理解する勉強会 (16 日)	1 名
	認知症ケアの専門性を理解する勉強会 (17 日)	1 名
	認知症ケアの専門性を理解する勉強会 (22 日)	2 名

その他

5 月	防虫駆除 亜土消毒 (14 日)
7 月	消防設備点検 エノビ防災技研 (20 日)
10 月	消防設備点検済 エノビ防災技研 (18 日) 消防提出
11 月	沖縄市防災訓練 津波避難訓練 (5 日) 総合防災訓練 沖縄市消防立会無／沖縄市消防 訓練計画書提出 (24 日) 防虫駆除 亜土消毒 (2 日) 高圧変電設備点検 無停電 ナカソネ電省 (13 日)
1 月	高圧変電設備点検 無停電 ナカソネ電省 (4 日)
2 月	貯水槽清掃／株式会社総合管理産業 (22 日) 簡易専用水道検査／日東化学工業株式会社 (25 日)
3 月	総合防災訓練 沖縄市消防立会無／沖縄市消防 訓練計画書提出 (29 日) 消防設備点検 エノビ防災技研 (16 日)

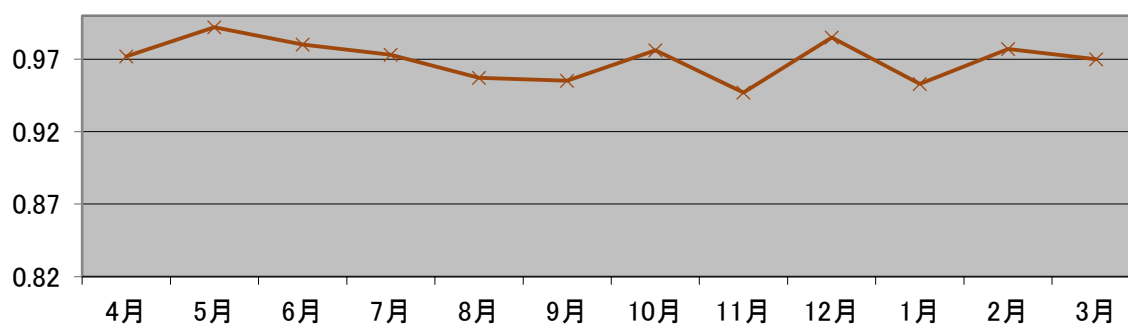
6. 利用者状況

(1) 年間実績 (利用日数)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
日数	1,500	1,550	1,500	1,550	1,550	1,500	1,550
入居	1,459	1,539	1,471	1,509	1,484	1,433	1,513
入院	41	11	29	41	66	67	37
稼働率	97.2%	99.2%	98.0%	97.3	95.7	95.5%	97.6%

月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
日数	1,500	1,550	1,550	1,400	1,550	18,250	
入居	1,427	1,527	1,527	1,369	1,511	17,720	
入院	73	23	72	31	54	530	
稼働率	94.7%	98.5%	95.3%	97.7%	97.4%	97.0%	

月間稼働率推移



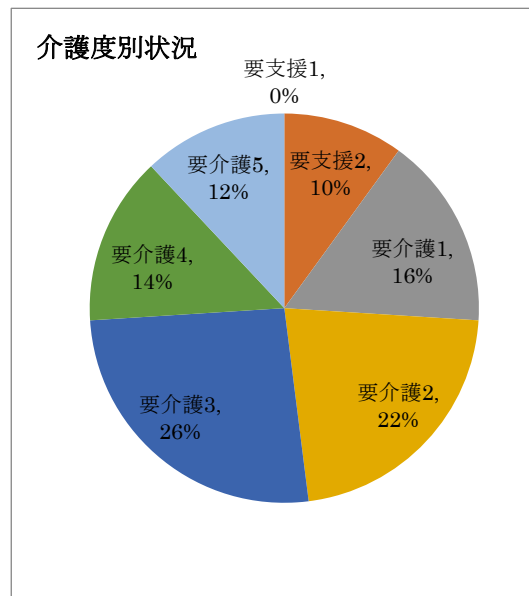
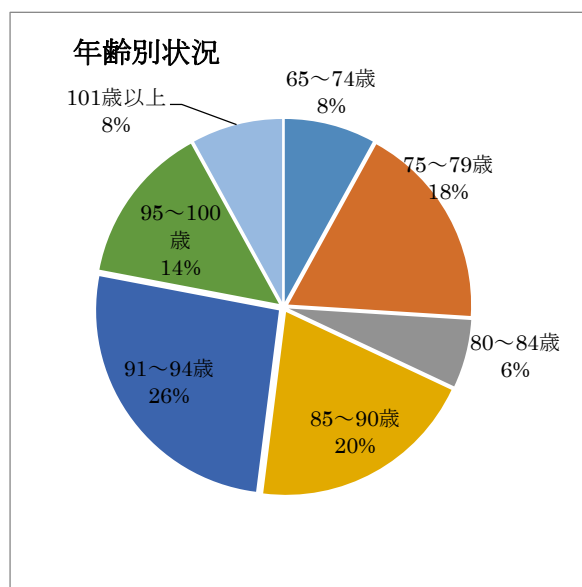
(2-1) 入居者の性別、要介護度別、年齢別の状況 (要支援)

	要支援 1		要支援 2		計	
	男	女	男	女	男	女
65～69歳	0	0	0	0	0	0
70～74歳	0	0	0	0	0	0
75～79歳	0	0	0	0	0	0
80～84歳	0	0	0	0	0	0
85～89歳	0	0	1	0	1	0
90～94歳	0	0	1	0	1	0
95～99歳	0	0	0	0	0	0
100歳以上	0	0	0	0	0	0
計	0	0	2	0	2	0
平均年齢	0.0	0.0	87.9	0.0	87.9	0.0

(2-2) 入居者の性別、要介護度別、年齢別の状況（要介護）

	要介護1		要介護2		要介護3		要介護4		要介護5		計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
65～69歳	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	1
70～74歳	1	2	0	0	0	1	0	0	0	0	1	3
75～79歳	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	1
80～84歳	2	1	1	2	0	1	1	0	0	0	4	4
85～89歳	1	1	0	0	0	2	1	0	1	1	3	4
90～94歳	0	1	0	5	1	2	1	5	1	0	3	13
95～99歳	0	0	0	1	0	1	0	4	0	0	0	6
100歳以上	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	2
計	6	5	2	8	1	9	3	10	2	2	14	34
平均年齢	77.9	84.0	79.4	90.0	84.9	90.1	84.7	87.5	81.1	93.7	81.1	89.8

最高年齢 106 歳、最少年齢 66 歳、平均年齢 87.8 歳（男性 82.3 歳 女性 89.6 歳）



(3) 入退居状況

	入 居			退 居				
	在宅	施設	計	死亡	医療機関	他施設	在宅	計
4 月	0	0	0	0	0	0	0	0
5 月	1	0	1	1	0	0	0	1
6 月	0	0	0	0	0	0	0	0
7 月	0	0	0	1	0	0	0	1
8 月	2	0	2	1	1	0	0	2
9 月	1	0	1	1	0	0	0	1
10 月	2	0	2	1	0	0	0	1
11 月	0	0	0	0	0	1	0	1

12 月	2	0	2	1	0	0	0	1
	入居			退居				
	在宅	施設	計	死亡	医療機関	他施設	在宅	計
1 月	1	0	1	1	0	0	0	1
2 月	0	0	0	0	0	0	0	0
3 月	1	0	1	0	0	1	0	1
合計	1 0	0	1 0	7	1	2	0	1 0

ケアハウスていんさぐぬ花

ケアハウスていんさぐぬ花 事業報告

1. 総括

職員は新型コロナウイルス感染対策として、マスク・グローブ・フェイスシールド・ガウン着用・1 ケア 1 プッシュ・館内の消毒・出勤前、出勤時の平熱確認、定期のPCR検査、必要に応じ抗原検査を実施。利用者においては、マスク着用を促し食事前と帰所後の手指消毒、面会等で来所されたご家族様にはスタンド型体温計で平熱を確認し来訪届に記入して頂いた。面会時はビデオ通話やガラス越しやアクリル板越しの面会を実施。面会制限の中、ご家族様に誕生会等の写真を送付し近況をお知らせすることができた。定期受診は状態が落ち着いている利用者については、医療機関と情報を共有しご家族様へ代理受診を依頼した。インフルエンザ等の感染はなかった。誤嚥性肺炎防止で口腔体操や食後の口腔ケアを実施。利用者の状態の変化は早期に発見し、水分補給など必要な処置を施した上、それでも回復が見られない場合は医療機関と連携しご家族様の協力を得て受診を促し状態が悪化しないように努めた。面会制限が長引く中、日々体操を中心とした集団活動や個別の機能訓練を実施し身体機能の維持に努めた。敬老会では、新百歳、トーチ、生年祝いの寿迎者が各2名おり施設で祝う事ができた。又、退去者は10名。内2名は看取り。1名は在宅復帰。7名は入院後間もなく死去しており、ギリギリまで手厚い介護で自立した生活の支援に努めた。衆議院選挙不在者投票を実施した。地域活動は、比屋根湿地・泡瀬海岸清掃や比屋根自治会草刈り作業に参加できた。

2. 運営状況

毎月1日付け定員50名（内2名は自立）は維持できた。平均要介護度は1.9。8、9月の稼働率は100%に達し年間の稼働率は98.2%で目標を達成した。朝礼で経営理念を再確認し法人の理念を共有した。タブレット端末に介護ソフトを導入し業務の効率化を図った。勤務状況については介護員に超勤が目立った。要因として、介護員2名が産休、介護員1名が休職、また体調不良、骨折、都合（体調が思わしくなく夜勤への不安、兄弟の面倒や育児、PT受験）による勤務時間の固定、家族の発熱や濃厚接触者疑いで休むなど欠勤が相次いだ事が考えられる。退職者は16名。採用は、ハローワークや求人紹介サイト、求人誌、職員紹介、ポスティング及び見守りが必要な時間帯のパートなどを幅広く募り、在住外国人を含む16名を採用できた。10月に事務員1名が事務局へ異動となり、利用者対応等で事務所が不在になる際は、事務局から応援を要請し対応した。

地域貢献の高齢者サロンは、前年度同様新型コロナウイルス感染対策で中止となった。

3. 事業実績

稼働率は98.2%（目標97.5%。前年度実績95.9%）

4. 事業状況

（１）利用者サービス

①心身の状態にあったケアプランに基づきサービスを提供する 実施

心身の状態に変化が見られる利用者については、フロア会議等で介助方法を共有し実施。感染予防で面会や訪問が制限され担当者会議は 21 件。その都度、ケアプランを配布し情報の共有を図った。

②レク活動の更なる充実を図る 未実施

人員不足から体操と映写会が主であった。

③機能訓練員による機能訓練の実施、身体の清潔の保持、歯科衛生士の指導のもと口腔ケアを実施し、ADLの維持に努める 実施

個別の機能訓練計画書に基づいた訓練を実施できた。週 3 回の入浴を実施できた。歯科衛生士の指導は感染予防で開催しなかった。

④ご家族様の面会等はビデオ通話なども取り入れ、近況を伝え情報を共有する 実施

感染予防で面会が制限され、ビデオ通話やガラス越しやアクリル板越しの面会を実施。ご家族様に誕生会等の写真を送付し近況をお知らせすることができた。

⑤利用者の心身の変化は早期発見し介護ロボット等や ICT を活用し、その状態にあった介護を実施する。又、緊急時には多職種が連携した応急処置、必要に応じ早期受診し状態が悪化しないよう努める 実施

利用者の状態の変化は、床センサーや人感センサーを設置した。タブレット端末に介護ソフトを導入し情報処理能力を高めた。発熱などは水分補給等を施した上、それでも回復が見られない場合は医療機関と連携しご家族様の協力を得て受診を促し状態が悪化しないように努めた。

（２）人材育成と職員採用

①職員一人一人が、既存のレクリエーションを元気よく活発な進行で、利用者の笑顔を引き出す 未実施

人員不足から体操と映写会が主となり、十分なレク活動には至らなかった。

②職員は業務に誇りと自信を持ち、目標を定め具体的な課題について取り組み、スキルアップを目指す 実施

利用者や職員間のコミュニケーションを図るとともに業務に関する課題に取り組めた。勉強会でオンラインを活用しスキルアップを図った。

③新人介護員については、役職員が積極的に介護技術や知識を指導する 実施

人員不足や複数の固定勤務者でシフトが偏り、役職員の夜勤日数が多くなるなど指導は不十分であった。

④勉強会などで看取りに関する理解を深める 実施

勉強会を 1 回実施した。

⑤権利擁護等の勉強会を年 2 回実施する 実施

年2回実施でき理解を深めた。

- ⑥本部主催の研修や県内外研修へ参加し、介護技術などの知識を習得する 実施
ハサップ講習会などの本部研修に参加できた。県内外研修はなかった。
- ⑦介護福祉士実務者研修等や自主研修費について、その費用を助成する 実施
3名に初任者研修や実務者研修の費用を助成した。介護員2名が介護福祉士に合格した。
- ⑧ハローワーク等の活用や職員紹介などで雇用を図る 実施
15名（内職員紹介1名）を採用。
- ⑨外国人の雇用を図る 実施
在住外国人2名を採用できた。

（3）設備管理、備品及び環境の整備

- ①設備の定期点検や必要な修繕等を実施する 実施
定期点検を実施できた。必要な修繕を実施できた。
- ②居室クーラー等のクリーニングを実施する 未実施
カーテンクリーニングを優先したので実施できなかった。
- ③タブレット端末（2台）にシステムを導入し、記録業務等の効率化を図る 実施
介護ソフトを導入し業務の効率化が図れた。
- ④4F花壇を整備し、利用者へ憩いの場を提供する 実施
スカイガーデンと称し、コーヒーなどを提供する事ができた。

（4）リスクマネジメント

- ①身体拘束及び虐待の禁止
勉強会の実施で理解を深めた。
- ②ヒヤリハットや事故等は記録を取り、分析し事故防止を図る 実施
記録を取る事ができ、且つ事故を分析しセンサーマット等を設置し対策を実施する事ができた。又、事故については家族に遅滞なく報告し謝罪した。
- ③利用者や家族の要望や苦情は丁寧に取り取る 実施
要望はケアプランに反映させ情報を共有した。突発的な要望については、介護員が利用者や家族に適時対応した。苦情はなかった。
- ④毎月の防災訓練の実施で防災意識の向上を図る 実施
毎月の訓練実施で利用者や職員の意識向上を図れた。感染予防で沖縄市消防本部の立ち合いはなかったが訓練計画書に基づき実施できた。
- ⑤急変時や災害等の初動は迅速に行う 実施
急変時は医療機関と連携し、ご家族様の協力を得て受診し状態が悪化しないように努めた。災害等はなかった。

（5）感染予防

- ①新型コロナウイルス等については、感染対策マニュアルに基づき、手洗いやうがい・アルコールによる手指消毒・テーブルやエレベーター等の消毒を実施する 実施
1 ケア 1 プッシュを徹底し、館内の消毒もこまめに実施できた。
- ②出勤前自宅で平熱を確認。出勤時も平熱を確認しマスク等を着用する 実施
出勤時平熱を確認し記録を取る事ができた。
- ③利用者及び職員の健康診断の実施 実施
利用者 51 名、職員 43 名実施できた。
- ④新型コロナウイルスワクチン接種等の実施 実施
利用者 47 名 3 回目のワクチン接種を実施できた。
- ⑤マスク・手袋・ガウン・アルコール等の備蓄の確保 実施
在庫が不足する事なく補充できた。
- ⑥感染症対策委員会で感染予防の基礎知識やガウンテクニックなどを習得する 実施
勉強会にてネット配信動画を活用し実施し感染予防の意識向上を図った。
- ⑦来訪者届の記載及び平熱等確認 実施
来訪者に協力を依頼し記録して頂いた。
- (6) 経費削減
- ①館内、居室の換気を行い、快適に過ごせるよう必要に応じて冷暖房機を使用し適切な温度を保った 実施
感染予防もあり換気は常に実施し適切な温度を保てた。
- ②照明は適切に使用し、水の出しっぱなしはしない 実施
各フロア半灯にするなど工夫できた。入浴時、水の出しっぱなしがみられた。

5. 行事实績

月	行事・イベント名	参加人数
4 月	誕生会 (15 日)	4 人
	防災訓練 (20 日)	人
	スカイガーデン (27 日)	8 人
5 月	母の日祝い会 (7 日)	45 人
	防災訓練 (18 日)	人
	誕生会 (20 日)	2 人
6 月	誕生会 (17 日)	3 人
	父の日祝い会 (18 日)	44 人
	防災訓練 (22 日)	人
	誕生会 (20 日)	2 人
7 月	七夕会 (7 日)	45 人
	誕生会 (15 日)	5 人

	防災訓練・地震津波避難訓練（18日）※ 消防立会なし	
8月	防災訓練（17日）	
	誕生会(19日)	1人
9月	誕生会(16日)	4人
	敬老会(21日)	51人
	防災訓練(28日)DVD視聴	
10月	散髪（6日）	22人
	散髪（9日）	22人
	利用者健康診断（12日）	46人
	誕生会（14日）	10人
	運動会（16日）	46人
	防災訓練（19日）	
	第49回衆議院議員総選挙不在者投票 (26日)	11人
11月	沖縄市防災訓練（5日）	
	防災訓練（16日）	
	誕生会（18日）	6人
	スカイガーデン（23日）	8人
12月	防災訓練DVD視聴（13日）	
	散髪（14日）	22人
	誕生会（16日）	4人
	散髪（21日）	16人
	クリスマス忘年会（24日）	46人
1月	防災訓練DVD視聴(18日)	
	誕生会（20日）	4人
2月	防災訓練（15日）	
	誕生会（17日）	1人
3月	防災訓練DVD視聴（15日）	
	誕生会（17日）	3人

クラブ活動	回数	参加人数（1回当たり）
カラオケ	0	0
歌声	61	12

映写会	243	12
民舞	33	13
ドライブ	0	0
習字	2	10
塗り絵	25	12
お茶会	0	0
ボーリング	8	10
輪投げ	21	11
手工芸	34	12
スカッシュボール	24	12
体操	475	12
脳トレ	37	12
バレエ	2	15

会議等

月	場 所	会議・勉強会	参加人数
4月2日	ていんさぐぬ花	主任会議	5名
4月16日	ていんさぐぬ花	2階フロア会議	6名
4月16日	ていんさぐぬ花	施設内会議	12名
4月21日	緑樹苑	経理勉強会	1名
4月23日	ていんさぐぬ花	3階フロア会議	7名
4月28日	ていんさぐぬ花	勉強会・KYT 及び 5S について	8名
5月6日	ていんさぐぬ花	主任会議	5名
5月14日	ていんさぐぬ花	勉強会・感染症予防対策及び訓練について	5名
5月21日	緑樹苑	経理勉強会	1名
5月24日	ていんさぐぬ花	2階フロア会議	6名
5月28日	ていんさぐぬ花	3階フロア会議	6名
6月1日	ていんさぐぬ花	主任会議	5名
6月7日	ていんさぐぬ花	臨時・主任会議	3名
6月11日	ていんさぐぬ花	厨房会議	6名
6月11日	ていんさぐぬ花	緊急時の対応、アセスメント、RCA 分析、事故・ヒヤリハット報告、AED 対応等について	8名
6月18日	ていんさぐぬ花	2階フロア会議	7名

6月25日	ていんさぐぬ花	3階フロア会議	8名
7月2日	ていんさぐぬ花	主任会議	5名
7月9日	ていんさぐぬ花	勉強会・認知症高齢者の周辺状況について	7名
7月20日	ていんさぐぬ花	2階フロア会議	6名
7月22日	緑樹苑	経理勉強会	1名
7月23日	ていんさぐぬ花	3階フロア会議	7名
7月23日	ていんさぐぬ花	臨時・主任会議	3名
7月28日	ていんさぐぬ花	臨時・主任会議	3名
8月3日	ていんさぐぬ花	主任会議	3名
8月9日	ていんさぐぬ花	勉強会・接遇の理解と現場にふさわしい言葉遣い	3名
8月10日	ていんさぐぬ花	勉強会・接遇の理解と現場にふさわしい言葉遣い	8名
8月12日	ていんさぐぬ花	勉強会・利用者の人権と尊厳について	6名
8月13日	ていんさぐぬ花	勉強会・利用者の人権と尊厳について、標準感染予防策について	7名
8月27日	ていんさぐぬ花	3階フロア会議	7名
9月3日	ていんさぐぬ花	主任会議	5名
9月3日	ていんさぐぬ花	厨房研修・社会福祉施設におけるハサップの対応について	2名
9月10日	ていんさぐぬ花	勉強会・ことばの影響について	5名
9月11日	ていんさぐぬ花	厨房研修・社会福祉施設におけるハサップの対応について	1名
9月13日	緑樹苑	消費税インボイス制度セミナー(オンライン)	1名
9月15日	ていんさぐぬ花	厨房研修・栄養士・調理員が進める食育・嚥下機能にあった食形態について	2名
9月15日	ていんさぐぬ花	勉強会・ことばの影響について	6名
9月16日	ていんさぐぬ花	新人職員研修・介護職員として必要な知識	1名
9月17日	ていんさぐぬ花	厨房研修・栄養士・調理員が進める食育・嚥下機能にあった食形態について	1名
9月20日	ていんさぐぬ花	厨房研修・栄養士・調理員が進める食育・嚥下機能にあった食形態について	1名

9月24日	ていんさぐぬ花	厨房研修・栄養士・調理員が進める食育・嚥下機能にあった食形態について	1名
9月24日	ていんさぐぬ花	3階フロア会議	8名
9月30日	ていんさぐぬ花	福祉サービスに関する苦情解決セミナー	1名
10月1日	ていんさぐぬ花	身体的拘束適正化検討委員会	5名
10月1日	ていんさぐぬ花	主任会議	4名
10月8日	ていんさぐぬ花	厨房会議	5名
10月8日	ていんさぐぬ花	勉強会・介護職員の医療外行為について	8名
10月22日	ていんさぐぬ花	3階フロア会議	7名
10月27日	緑樹苑	経理勉強会	1名
11月2日	ていんさぐぬ花	主任会議	5名
11月5日	ていんさぐぬ花	勉強会・看取りについて	5名
11月12日	ていんさぐぬ花	勉強会・認知症の特徴と多職種連携の必要性について	9名
11月22日	ていんさぐぬ花	社会福祉施設等における新型コロナウイルスの今後(第6波)に備えるための勉強会	1名
11月26日	ていんさぐぬ花	3階フロア会議	7名
11月29日	緑樹苑	経理勉強会	1名
12月1日	ていんさぐぬ花	主任会議	4名
12月8日	ていんさぐぬ花	勉強会・標準感染予防策	3名
12月10日	ていんさぐぬ花	勉強会・異常の早期発見のための観察の視点について	6名
12月18日	ていんさぐぬ花	2階フロア会議	5名
12月21日	ていんさぐぬ花	社会福祉法人次世代経営塾	1名
12月22日	ていんさぐぬ花	臨時・主任会議	4名
12月22日	ていんさぐぬ花	勉強会・緊急時の対応(AED)について	13名
12月24日	ていんさぐぬ花	3階フロア会議	8名
12月28日	緑樹苑	経理勉強会	1名
1月6日	ていんさぐぬ花	主任会議	4名
1月14日	ていんさぐぬ花	勉強会・感染症に係る事前対策等について、個人防護具(ガウンテクニック)を着る手順について	7名

1月21日	ていんさぐぬ花	2階フロア会議	5名
1月28日	ていんさぐぬ花	3階フロア会議	11名
2月2日	ていんさぐぬ花	リスクマネージャー実践講座	1名
2月4日	ていんさぐぬ花	主任会議	2名
2月18日	ていんさぐぬ花	2階フロア会議	7名
2月18日	ていんさぐぬ花	勉強会・高齢者虐待防止の基本について、メンタルヘルスについて	9名
2月18日	ていんさぐぬ花	臨時・主任会議	4名
2月22日	ていんさぐぬ花	社会福祉法人次世代経営塾	1名
2月25日	ていんさぐぬ花	3階フロア会議	7名
3月8日	ていんさぐぬ花	社会福祉法人次世代経営塾	1名
3月9日	ていんさぐぬ花	主任会議	4名
3月11日	ていんさぐぬ花	勉強会、緑樹会就業規則について、重要事項説明書について	9名
3月30日	ていんさぐぬ花	3階フロア会議	8名

本部研修

月	場 所	研修・勉強会名	参加人数
4月15日	緑樹苑	ハサップ講習会	3名
4月23日	緑樹苑	ハサップ講習会	2名
5月18日	緑樹苑	新人職員研修	2名
7月14日	緑樹苑	新人職員研修	1名
9月13日	緑樹苑	消費税インボイス制度セミナー（オンライン）	1名
10月7日、8日 14日、15日	緑樹苑	令和3年度・社会福祉法人会計講座	1名

その他

辞令交付式	4月1日
施設内会議	4月16日 12名
監事監査	5月13日・14日
建物検査	11月17日
害虫駆除	5月6日、8月23日、11月8日、2月21日
受水槽清掃	1月24日
水質検査	3月9日
消防機器総合点検	9月2日、3月2日

電気設備点検	5月11日、7月14日、9月9日、11月5日、12月18日 1月26日、3月15日
エレベーター点検	毎月1回
電気保安点検	毎月1回
グリストラップ清掃	毎月1回
自動ドア点検	10月15日、3月25日

入退去状況

(単位:人)

	入 居			退 去				
	在宅	施設	計	死亡	医療機 関	他施設	居宅	計
4月	0	0	0	0	0	0	0	0
5月	0	0	0	0	0	0	0	0
6月	2	0	2	2	1	0	0	3
7月	1	0	1	0	0	0	0	0
8月	0	0	0	0	0	0	0	0
9月	0	0	0	0	0	0	0	0
10月	2	0	2	1	1	0	0	2
11月	0	0	0	0	0	0	0	0
12月	0	0	0	0	0	0	0	0
1月	2	0	2	3	0	0	0	3
2月	1	0	1	1	0	0	0	1
3月	1	0	1	1	0	0	0	1
合計	9	0	9	8	2	0	0	10

入居者の性別、要介護度別、年齢別の状況

(単位:人)

令和 3 年度	自立		要支援 1		要支援 2		計		総合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	
65～69 歳	0	0	0	0	1	0	1	0	1
70～74 歳	0	0	1	0	0	0	1	0	1
75～79 歳	0	0	0	0	1	0	1	0	1
80～84 歳	1	1	0	0	0	0	1	1	2
85～89 歳	0	0	0	0	1	2	1	2	3
90～94 歳	0	0	0	2	0	2	0	4	4
95～99 歳	0	0	0	1	0	1	0	2	2
100 歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	1	1	1	3	3	5	5	9	14
平均年齢	81	80	71.0	93.0	76.6	91.0	76.6	91.0	83.8

(単位:人)

令和 3 年度	要介護 1		要介護 2		要介護 3		要介護 4		要介護 5		計		総合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
65～69 歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
70～74 歳	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
75～79 歳	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	2
80～84 歳	0	6	2	1	0	1	0	0	0	0	2	8	10
85～89 歳	1	2	0	0	0	1	2	0	0	0	3	3	6
90～94 歳	0	2	1	2	0	1	1	2	0	1	2	8	10
95～99 歳	0	2	0	2	0	1	0	0	0	0	0	5	5
100 歳以上	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2	2
計	1	12	5	6	0	4	3	3	0	3	9	27	36
平均年齢	89	86.7	81.2	89.5	0	89.25	88.66	94.66	0	89.0	86.2	89.8	88.0

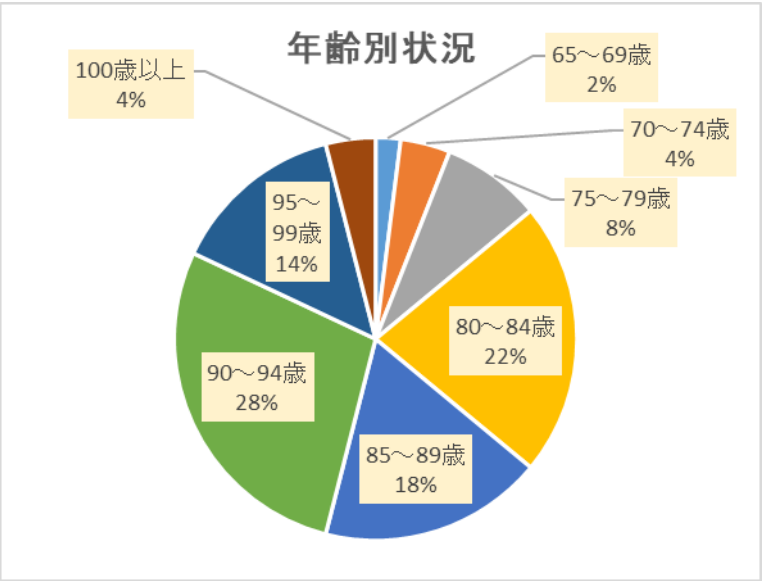
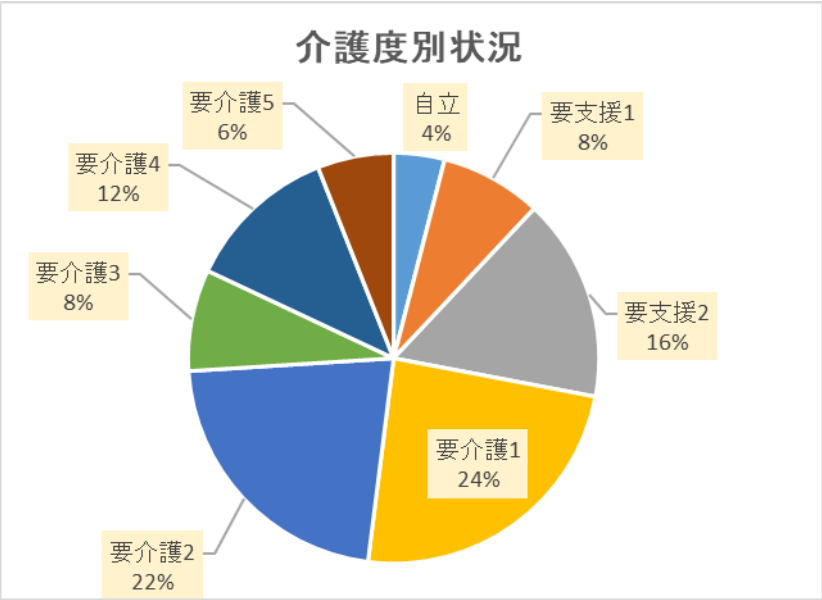
- ・最大年齢 101 歳、最小年齢 67 歳
- ・平均年齢：男性 81.2 歳、女性 89.1 歳、計 85.19 歳
- ・平均介護度：1.9

年間実績（利用日数）

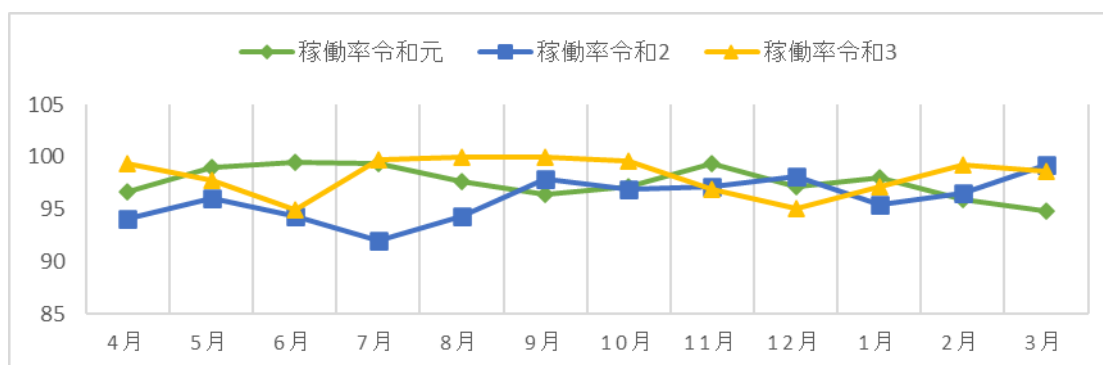
月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月
入居	50 名	50 名	50 名	50 名	50 名	50 名	50 名
入院	0 名	1 名	1 名	1 名	0 名	0 名	1 名
稼働率	99.3%	97.8%	94.9%	99.7%	100%	100%	99.6%
月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計	

入居	50 名	50 名	50 名	50 名	50 名	600 名
入院	4 名	6 名	6 名	2 名	1 名	23 名
稼働率	96.9%	95.1%	97.1%	99.2%	98.6%	98.2%

※入居は、毎月 1 日付け人数。



月間利用入居実績前年度比較



6, 各種委員会

月	場 所	会議名	参加人数
4月15日	緑樹苑	安全衛生委員会（ハラスメントについて）	1名
4月27日	ていんさぐぬ花	身体的拘束等適正化検討委員会	7名
5月3日	ていんさぐぬ花	行事委員会	5名
5月21日	ていんさぐぬ花	感染症予防対策委員会	4名
6月11日	ていんさぐぬ花	行事委員会	5名
8月3日	ていんさぐぬ花	感染症予防対策委員会	4名
8月14日	ていんさぐぬ花	行事委員会	6名
10月1日	ていんさぐぬ花	身体的拘束等適正化検討委員会	5名
10月15日	ていんさぐぬ花	虐待防止委員会	5名
10月21日	緑樹苑	安全衛生委員会（腰痛予防対策について審議、ストレスチェックについて）	1名
11月12日	ていんさぐぬ花	行事委員会	8名
12月1日	ていんさぐぬ花	感染症予防対策委員会	5名
12月1日	ていんさぐぬ花	行事委員会	3名
12月16日	緑樹苑	安全衛生委員会（各部署の労災になった事例について）	1名
1月6日	ていんさぐぬ花	行事委員会	3名
2月25日	ていんさぐぬ花	身体的拘束等適正化検討委員会	5名
3月20日	緑樹苑	安全衛生委員会（今年度の活動について）	0名
3月30日	ていんさぐぬ花	身体的拘束等適正化検討委員会	4名